

Accuphase

SUPER AUDIO CD PLAYER



SUPER AUDIO CD



スーパーオーディオCDプレーヤー

DP-78

取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属の「お客様カード」に必要事項を記入の上、お早めに(なるべく10日以内に)ご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

※「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは40ページをご参照ください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、当社品質保証部またはお求めの当社製品取扱店へ、直ちにご連絡ください。

尚、品質保証は日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.



マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。



警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。



注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

付属品を確認します

- 取扱説明書 1冊
- リモート・コマンダー RC-100 1個
- 安全上のご注意 1冊
- 単4乾電池 2個
- お客様情報の取扱いについて 1枚
- プラグ付オーディオ・ケーブル(1m) ... 1組
- お客様カード 1枚
- AC電源コード(2m) 1本
- 目隠しシール 1枚

目次

付属品を確認します 表紙裏頁

1. ⚠警告 安全上必ずお守りください 2

お使いになる前に 2

⚠注意/使用上の注意 3

接続上の注意 4

DP-78の録音について 4

本機で再生できるディスク 4

2. 各部の名前

フロントパネル、リアパネル 5

ディスプレイ部/リモート・コマンダー 6

3. 接続図 7

4. 各部の動作説明 8~10

5. リモート・コントロール 11

6. ご使用方法

通常のSA-CD/CDプレーヤーとして使用する場合

演奏の基本操作 12

機能設定: セッティング・モードの切替 13

ディスプレイの明るさ 13

電源ON時の動作 13

自動ポーズの時間 13

変更した機能を初期設定に戻す 13

ディスプレイ部

再生中のディスプレイ 14

ストップ(停止)状態でのディスプレイ 14

ディスプレイ・モードの切替 14

TEXT情報付ディスクのディスプレイ 15

いろいろな演奏方法

途中で演奏を中止するには 16

演奏を直ちに開始しないとき 16

トラック(曲)を指定して演奏 16

曲の途中の演奏したい部分を探す 17

リピート(繰り返し)演奏 18, 19

シャッフル演奏 19

プログラム演奏 20, 21

DP-78のトランスポートを活用する接続例

DC-330に接続 22

DP-78とDC-330, DF-45をデジタルで接続 23

DC-101に接続 23

デジタル・プロセッサとして使用する場合 24

SA-CD/CD, MD, DATなどをデジタル入力で演奏 25

デジタル・レコーダーで録音・再生をする場合 26

DG-38やDG-28の接続例

デジタルでの接続例 27~30

アナログでの接続例 31

7. DP-78を活用するオプション

オプションの種類

①HS-Linkケーブル(1.5m) HDL-15 32

②デジタル入・出力ボード DIO-OC1 33

③HPCオプティカル入・出力ボード DIO-ST1 33

④AES/EBU入・出力ボード DIO-PRO1 33

⑤HS-Link出力ボード DO2-HS1 34

⑥HS-Link入力ボード DI2-HS1 34

⑦DG-28用広帯域デジタル入・出力ボード DIO2-DG1 34

⑧ライン入力ボード(アンバランス用) AI2-U1 35

⑨ライン入力ボード(バランス用) AI2-B1 35

⑩ライン出力ボード(アンバランス用) AO2-U1 35

⑪ライン出力ボード(バランス用) AO2-B1 35

⑫DG-28用広帯域アナログ入・出力ボード(アンバランス用) AIO-DGU1 35

⑬DG-28用広帯域アナログ入・出力ボード(バランス用) AIO-DGB1 35

オプションの取り付け方法 35

8. 保証特性 36

9. 特性グラフ 37

10. ブロック・ダイアグラム 38

11. 故障かな?と思われるときは 39

12. アフターサービスについて 40

1. ⚠️ 警告 安全上必ずお守りください

ご使用前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

■電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

- AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

■電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

- 付属の電源コード以外は絶対に使用しないでください。
- 付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全です。接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

■脚の交換は危険ですから行わない。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。

■放熱のため製品の周辺は他の機器や壁等から充分間隔(10cm以上)をとる。

■機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)を置かない。

■密閉されたラック等には絶対に設置しない。通風が悪いと機器の温度が上り、火災や故障の原因となります。

■トップ・プレートや底板は絶対にはずさない。内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

■次の場合には、まず本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。

- 内部に水や薬品がかかった場合。
- 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
- 故障や異常(発煙やおおいなど)と思われる場合。
- 落としたり、破損した場合。

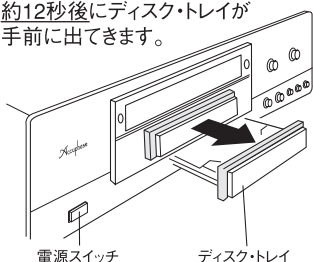
※電源コードをコンセントから抜かないと、電源スイッチをOFFにただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。

※必ず当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

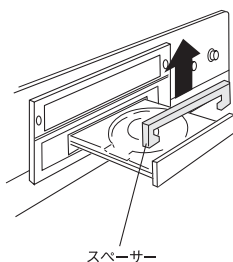
お使いになる前に

レーザー・ピックアップを含む光学部品は輸送時の衝撃から保護するためにロックされています。ご使用前にスペーサーを図のようにはずしてください。

電源スイッチを入れると、約12秒後にディスク・トレイ手前に出てきます。



スペーサーをはずします。



本体のお手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。

⚠ 注意

■設置場所について

必ず水平な場所に設置してください。次のような場所は、故障や事故の原因となります。

- 通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
- 直射日光の当たる所
- 暖房器具の近くなど温度の高い所
- 極端に寒い所
- 振動や傾斜のある不安定な場所

また、他の機器と直接重ねての使用は絶対に避けてください。

チューナーやテレビ、ビデオデッキから離して設置してください。

- 近くに置くと雑音や映像の乱れが生じることがあります。(特に室内アンテナの場合は注意。)
- アンテナ線と本機の電源コードや入・出力コードを離して設置してください。

■レーザー光源をのぞき込まない。

レーザー光をのぞき込むと視力障害の原因となります。

■入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切ってから、確実に行なう。

- RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(ー)側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。
- 電源を入れた状態で光ファイバーを抜き差しすると、ショック・ノイズを発生する場合があります。

■POWERスイッチは、各機器が正しく接続されるまで入れないでください。

■オプション・ボードを抜き差しする場合は、必ず電源を切ってください。

■電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

■長期間ご使用にならないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜いてください。

■入・出力端子などに接点保護剤などを絶対に使用しない。樹脂部が経年変化で破損して感電や故障の原因となることがあります。

■音量の調整について

SA-CDは、可聴帯域を超える高域成分の出力が可能です。音が出ていないときでも、不用意に音量を上げると、ノイズが出たり、思わぬ大音量が出て、アンプやスピーカーを破損する場合があります。

演奏を始める前は、大音量にならないように必ず音量を小さくしておいてください。

■HS-Linkケーブルの接続

HS-Linkの接続は、HS-Linkコネクタを装備しているオーディオ機器にHS-Linkケーブルで入力してください。

- 必ず当社別売のHS-Linkケーブルを使用してください。
- 誤ってコンピューターのLAN等に接続すると、それぞれの機器やシステムを壊すおそれがあります。

使用上の注意

■CCCDの再生は、動作・音質を保証できません。

- コピー・コントロールCD(CCCD)など『著作権保護技術付音楽ディスク』は、現在のCD規格に準拠していない特殊ディスクのため、当社のCD再生機器による再生の動作・音質は保証できません。
- CCCD等の詳細につきましては、ディスクの発売元にお問い合わせください。

■本機で再生できるのは、SA-CDおよびCDの標準規格に合致したディスクだけになります。再生にあたりましては、音楽ディスク・パッケージの表示をよくお読みください。

本機で再生できないディスク

- CD-ROM
- DVD
- SA-CD-Multi
- DVD-Audio
- CD-RW

※誤って使用するとノイズを発生する場合があります。

※CD EXTRA、CD-Rなどは録音状態によっては正常な動作をしないときがあります。

■光学系ピックアップの結露について

冬期、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴がついて曇ってしまう現象、これを結露といいます。CDプレーヤーでも次のようなときに、ピックアップ・レンズに結露することがあります。

- ストープなど、暖房器具をつけた直後
- 湿度が高く、湯気が立ち込めている部屋に置いてあるとき
- 冷えた戸外や冷房のきいた部屋から急に暖かい部屋に持ち込んだとき

結露してしまったら

結露すると、光学ピックアップがディスクのデジタル信号を読み取ることができず、プレーヤーが正しく動作しなかったり、まったく作動しなくなります。

このような場合、ディスクを取り出して電源を入れておけば、約1時間ほどで露が取り除かれ、正常な作動をするようになります。

～ディスクの取り扱いについて～

- 直射日光が当たる場所や、高温多湿のところには置かないでください。
- 演奏終了後は、ホコリキズを避けるため、必ずケースに入れて保存してください。
- レーベル面の反対側が信号読み取り面です。持つ場合には、信号面をさわらないようにしてください。指紋やホコリなどの汚れは音質劣化の原因となります。
- ディスクのお手入れの場合は、柔らかい布で内側中心から外側へ軽く拭いてください。
- ベンジン、レコードクリーナー、静電防止剤などは、ディスクを傷めますので使わないでください。

接続上の注意

DP-78は一体型SA-CD/CDプレーヤーですが、トランスポート部とプロセッサ部を分離し、それぞれを単独で利用できる入・出力端子を装備しています。また、オプション・スロットを装備していますので、デジタル入力/録音出力端子など用途に応じて、オプション・ボードを増設してください。

■DP-78をSA-CD/CDトランスポートとして使用する場合

……22, 23ページ

- TRANSPORT OUTPUTSからDC-330, DC-101等と接続します。

注意：HS-Linkコネクターからは、SA-CD/CDのデジタル信号が出力されます。COAXIAL端子からは、CDのデジタル信号のみ出力されます。

■DP-78をデジタル・プロセッサとして使用する場合

……24, 25ページ

- デジタル機器をDIGITAL INPUTS端子に入力します。
- または、増設したオプション・ボードのデジタル入力端子とデジタル機器を接続します。

■DP-78とDG-38との組み合わせについて

- デジタル接続の場合…… 27～30ページ
- アナログ接続の場合…… 31ページ

■オプション・ボードは32～35ページを参照してください。

DP-78の録音について

SA-CDのデジタル録音

著作権保護のため、SA-CDのデジタル録音はできません。

SA-CDのアナログ録音

- DP-78をアナログ・プリアンプに接続後、プリアンプのREC端子から録音します。
- * 増設したオプション・ボードのアナログ出力端子からは録音できません。

CDのデジタル録音

TRANSPORT OUTPUTS端子または増設したオプション・ボードのデジタル出力端子とMD, CD-R, DAT等を接続します。……26ページ

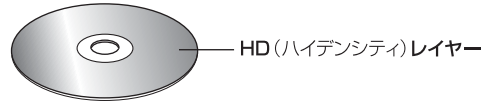
- * HS-LinkからのCDデジタル信号は録音できません。
- * デジタル録音は、SCMS(シリアル・コピーマネージメント・システム)により第1世代だけになります。

CDのアナログ録音

- DP-78 をアナログ・プリアンプに接続後、プリアンプのREC端子から録音します。
- または増設したオプション・ボードのアナログ出力端子から録音します。
- * HS-LinkでDC-330, DC-101等に接続したとき、そこに増設したオプション・ボードのアナログ出力端子から録音はできません。

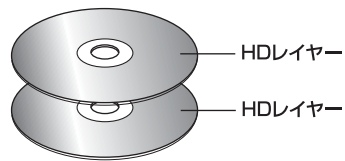
本機で再生できるディスク

SA-CD：シングルレイヤー・ディスク



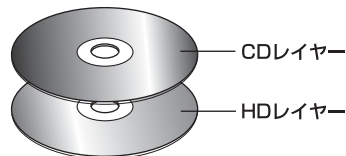
- HD(ハイデンシティ)レイヤー単層のSA-CDです。
- HDレイヤーは、SA-CD用の高密度信号層です。

SA-CD：デュアルレイヤー・ディスク



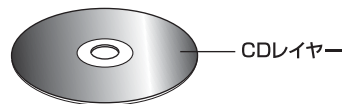
- HDレイヤーが2層になっているディスクで、長時間再生が可能なSA-CDです。
- 片面2層構造のため、再生時裏返す必要はありません。

SA-CD+CD：ハイブリッド・ディスク



- HDレイヤーとCDレイヤーが2層になっているディスクです。
- SA-CD/CDボタンを押して、希望の層を選択します。
- 片面2層構造のため、再生時裏返す必要はありません。
- CDレイヤーは、通常のCDプレーヤーでも再生することができます。

CD



- 従来フォーマットのCDです。

注意

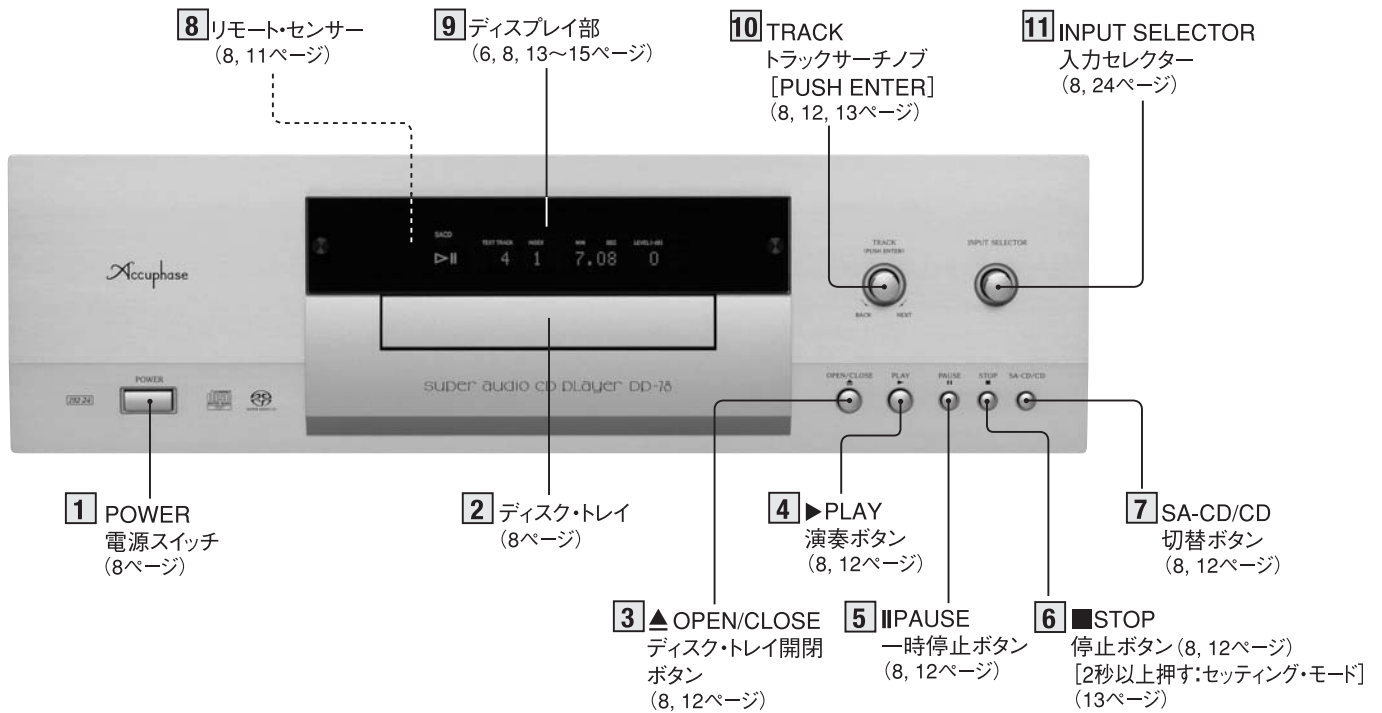
■マルチチャンネルSA-CDについて

- 2チャンネル・エリアは再生できますが、マルチチャンネル・エリアは再生できません。
- 2チャンネル・エリアのない、マルチチャンネルSA-CDは再生できません。

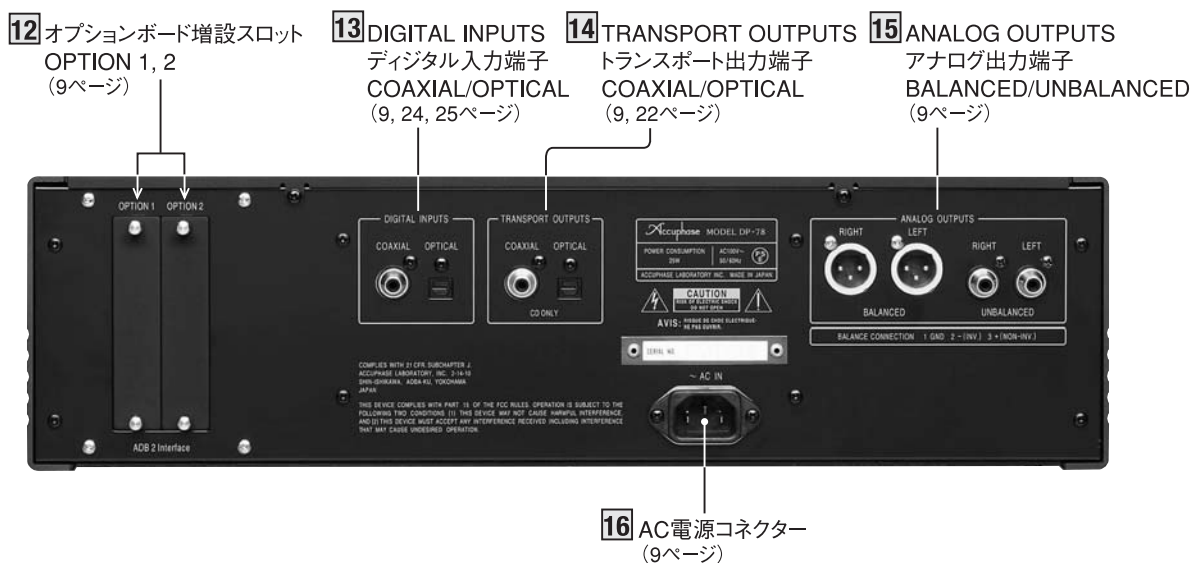
2. 各部の名前

詳しい説明は、各項目の()内のページを参照してください。

フロントパネル(前面)

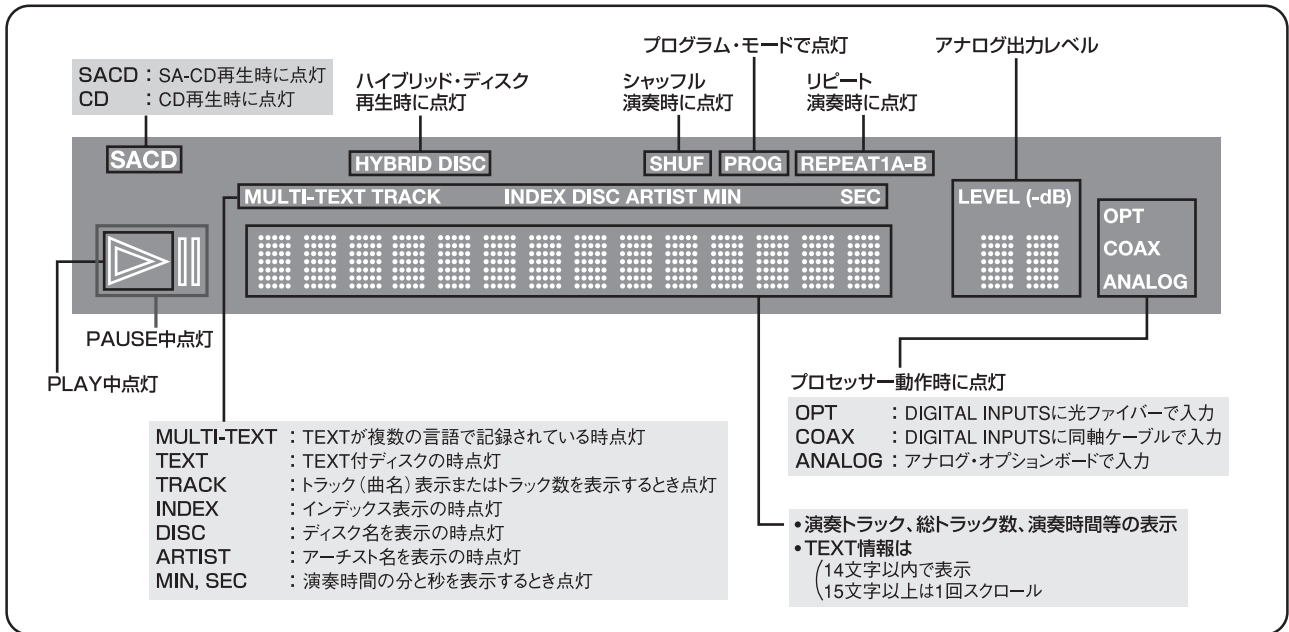


リアパネル(後面)



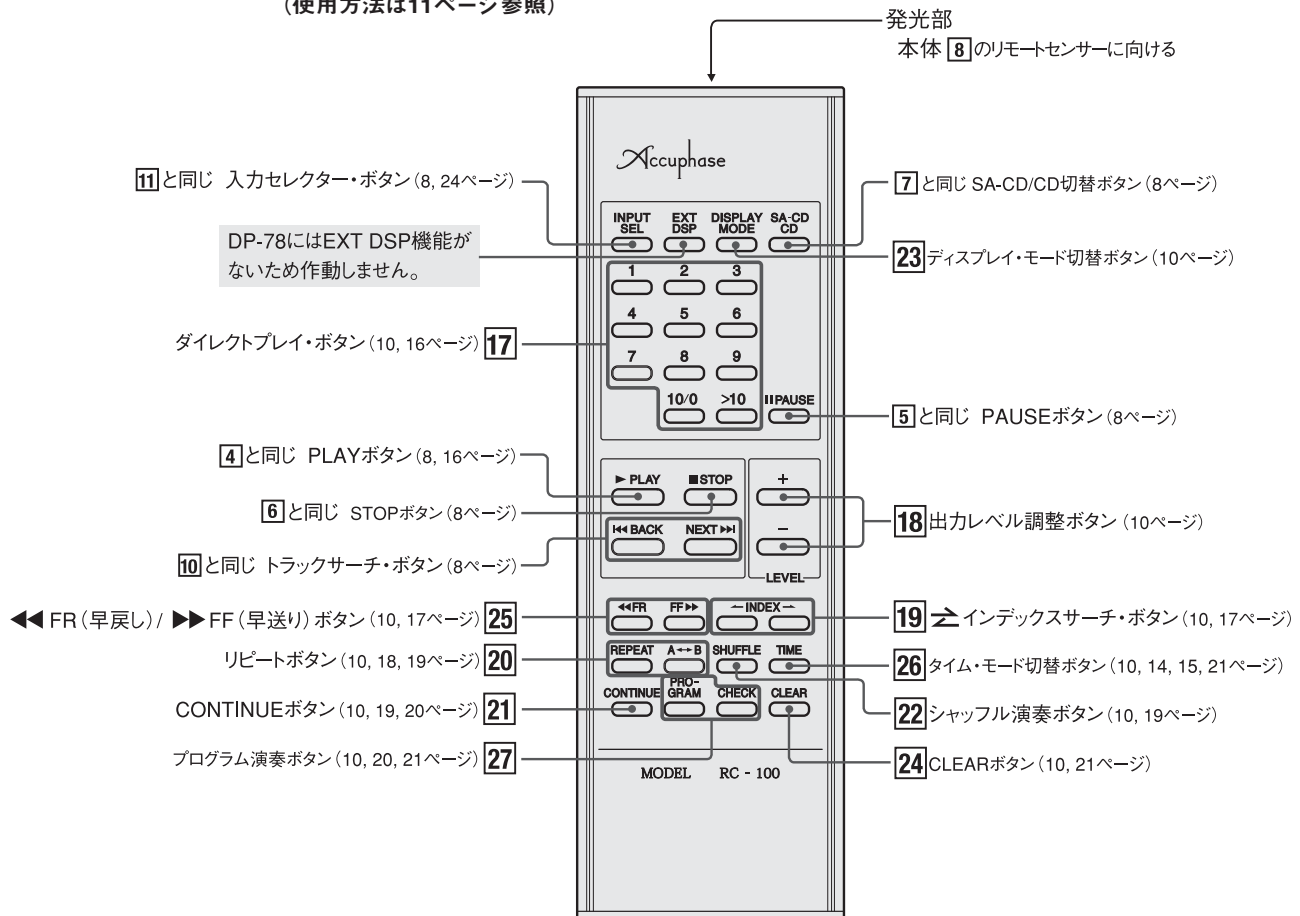
9 ディスプレイ部 (イラストは説明用ですので、実際の表示とは異なります)

13~15ページ参照



リモート・コマンダー RC-100(付属)

(使用方法は11ページ参照)

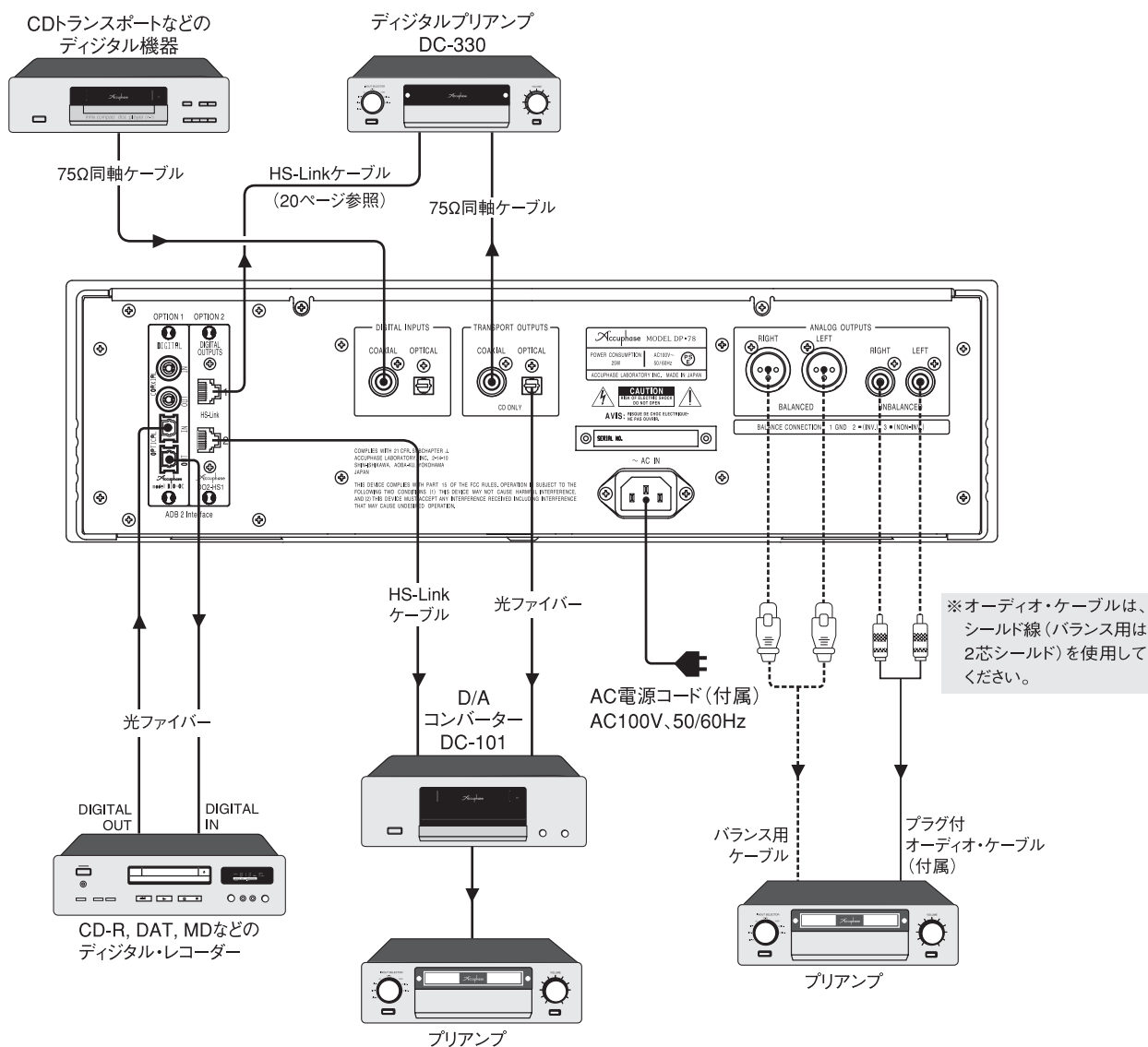


3. 接続図

注意 : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

- 注意**
- アナログ出力の接続はオーディオケーブルを使用し、LEFT(左)、RIGHT(右)を正しく接続してください。
 - バランス用とアンバランス用ケーブルは同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。
 - デジタル機器との接続は、HS-Linkケーブル、75Ω同軸ケーブル、光ファイバーなどを使用します。

イラストはオプションを増設した接続例(オプションの種類は32~34ページ参照)
 OPTION 1 : デジタル入・出力ボード(DIO-OC1)
 OPTION 2 : HS-Link出力ボード(DO2-HS1)



4. 各部の動作説明

——詳しい使用方法は()内のページを参照してください。

1 POWER — 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。
電源を入れてから回路が安定するまで約3秒間は、ミュージック回路が作動しますので出力はありません。

- 電源スイッチをOFFにすると、一部の機能(入力セレクト、OUTPUT LEVEL等)を除いて、それまでに設定された機能は解除されます。

2 ディスク・トレイ(12ページ)

▲ (OPEN/CLOSE) ボタンを押すと手前に出てきます。ディスク・トレイ前面を軽く押すか、▲ (OPEN/CLOSE) ボタンをもう一度押すか、▶ (PLAY) ボタンを押すと閉じます。

3 OPEN/CLOSEボタン(12, 16ページ)

押すとディスク・トレイが出てきます。もう一度押すと閉じます。

4 ▶ PLAY(演奏)ボタン(12, 16ページ)

演奏を開始するときに押します。

5 || PAUSE(一時停止)ボタン(12, 16ページ)

演奏を一時停止するときに押します。

6 ■ STOP(停止)ボタン

演奏中や一時停止中にこのボタンを押すと演奏停止になります。(12, 16ページ)
停止中に2秒間以上押しつづけると、セッティング・モードに入り各種設定ができます。(13ページ)

7 SA-CD/CDボタン(12ページ)

ハイブリッド・ディスクを再生するときに、SA-CDかCDを選択します。
押すたびに、ディスプレイ部の[SACD]と[CD]表示が切り替わります。

- STOP(停止)中に切り替えます。

8 リモートセンサー(11ページ)

付属のリモート・コマンダーRC-100の赤外線信号の受光部です。リモート・コマンダーの発光部をここにに向けてください。

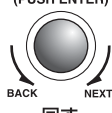
9 ディ스플레이部(14, 15ページ)

さまざまな情報を表示します。

10 TRACK(PUSH ENTER)トラックサーチ・ノブ(12ページ)


※機能設定として使用する場合は13ページ参照

NEXT
右に回すと、次々と曲の頭へ飛びます。
(▶▶ (NEXT) ボタンと同じ)




BACK
演奏中や一時停止の状態、左に回すとその曲の頭に戻ります。さらに回すと前の曲の頭へ飛びます。
(◀◀ (BACK) ボタンと同じ)

PUSH ENTER
停止中にノブを回してトラックを選択した後、ノブを押すとそのトラックから演奏を始めます。



11 INPUT SELECTOR 入力セレクト(24ページ)


INPUT SELECTOR



ノブを回すとリアパネルの、DIGITAL INPUTS端子及びオプション・スロットに入力された信号を選択

本体

INPUT SEL



リモートコマンダー

付属のリモート・コマンダーRC-100 (INPUT SEL ボタン)でも同様に選択することができます。

注意

本機のSA-CD/CDプレーヤー演奏中(または録音中)に、入力セクターでプロセッサ動作に切り替えると、SA-CD/CDトランスポート動作は停止(STOP状態)します。

12 OPTION1, 2 — オプション・ボード増設スロット

(26, 32～35ページ)

デジタル入力／録音出力関係のオプション・ボードを増設するスロットです。

13 DIGITAL INPUTS デジタル入力端子 (24, 25ページ)

本機をデジタル・プロセッサ一部として使用する場合は入力端子です。外部デジタル信号を同軸ケーブル(COAXIAL)または光ファイバー(OPTICAL)で入力します。

14 TRANSPORT OUTPUTS トランスポート出力端子 (22ページ)

本機のトランスポート部を使用する場合の出力端子で、CD専用のデジタル出力端子です。

注意

- SA-CD再生の場合、トランスポート端子からの出力はありません。
- 入力セレクターでプロセッサ動作に切り替えると、本機のトランスポート動作は停止(STOP状態)するため出力はありません。

15 ANALOG OUTPUTS — アナログ出力端子

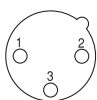
アナログ・プリアンプの入力端子と接続します。

UNBALANCED(不平衡出力)ジャック

通常のピンプラグ付オーディオ・ケーブルで接続します。

BALANCED(平衡出力)コネクター

バランス伝送用出力コネクターです。
ピンの極性は、次のようになっています。



- ① : グラウンド
- ② : インバート(-)
- ③ : ノンインバート(+)

- バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。

16 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。

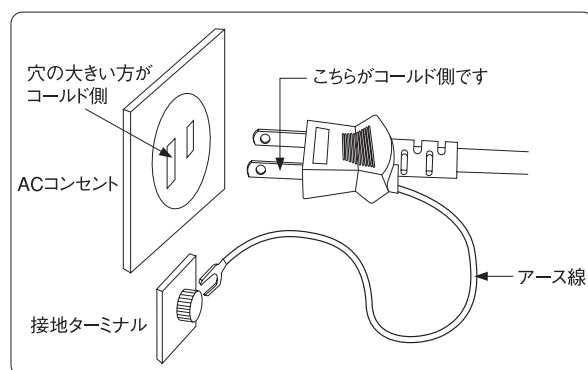


警告

電源は必ずAC100V、50/60Hz家庭用コンセントを使用する。

■電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全です。接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。



■電源コードの極性について

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

注意

- ※ 室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。
- ※ 大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示されることがあります。

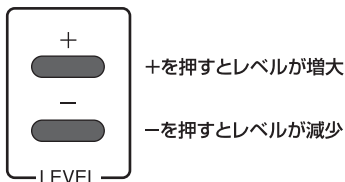
17 ダイレクトプレイ・ボタン (16ページ)

トラック番号を直接指定して演奏を開始させます。

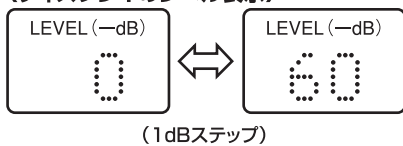
18 LEVEL: 出力レベル調整ボタン

アナログ出力のレベルを調整します。
デジタル方式により、0dB～-60dB (1dBステップ)の可変ができます。

- 通常は0dBで使用します。



〈ディスプレイのレベル表示〉



19 INDEX: インデックスサーチ・ボタン (17ページ)

インデックス付ディスクの場合、そのインデックスの頭から演奏を始めることができます。

20 リピート(繰り返し演奏)ボタン (18, 19ページ)

REPEAT

ディスクの全曲または1曲だけを繰り返して演奏します。

A↔B(指定区間の繰り返し演奏)

1曲中、指定区間の繰り返し演奏をします。

21 CONTINUEボタン (19, 20ページ)

シャッフルやプログラム再生中に押すと、通常の演奏に戻ります。

22 SHUFFLE: シャッフル演奏ボタン (19ページ)

シャッフル(ランダムに全曲を一回)再生になります。

23 DISPLAY MODE: ディスプレイON/OFFボタン (14ページ)

ディスプレイ部の表示を消して演奏することができます。
※プロセッサ動作の場合(24ページ参照)には、消灯できません。

24 CLEAR (21ページ)

プログラムした曲を削除します。

25 ◀◀ FR(早戻し)/ ▶▶ FF(早送り)ボタン (17ページ)

PLAY(演奏)中およびPAUSE(一時停止)中に作動させ、曲の聴きたい部分を探します。

26 TIME: タイム・モード切替ボタン (14, 15, 21ページ)

押すたびに、曲の経過時間、残り時間、全曲の残り時間やTEXT情報等を表示します。

27 プログラム演奏ボタン (20, 21ページ)

PROGRAM

聴きたい曲だけをセレクトして、好きな順序で演奏を楽しむことができます。

CHECK(プログラム・チェック)

プログラムした曲の順番を確認します。

5. リモート・コントロール

リモート・コマンダーRC-100

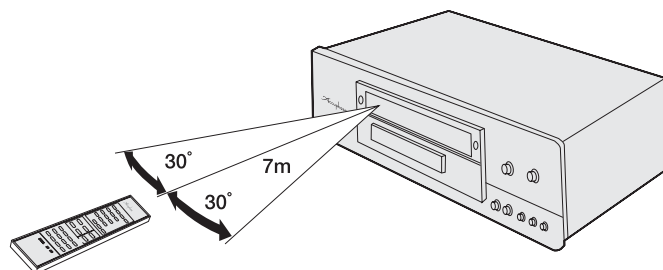
本機に付属しているリモート・コマンダーRC-100を使うと、離れたところからDP-78の機能をコントロールすることができます。

(機能の詳細は6ページ参照。)

使用法

リモート・コマンダーの発光部を本体の⑧リモート・センサーに向けて、図の範囲内でお使いください。

- 落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。
- 直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。



電池について

■電池の交換時期

電池は普通に使って約8カ月は動作しますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗しますと、ボタンを押してもコントロールできなくなります。

使用する電池は、単4形を2個、両方とも新しい電池に交換してください。

⚠ 注意

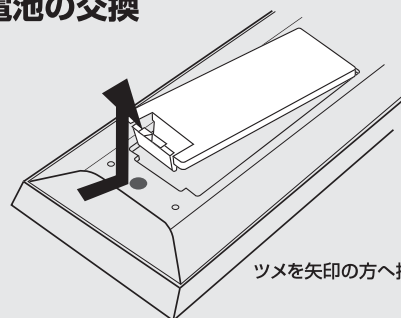
乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。次の点に十分ご注意ください。

- 電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、⊕ (プラス)、⊖ (マイナス) を正しく合わせる。
- 新しい電池と、1度使用したものを混ぜない。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。同じ形状でも、性能の異なるものがあります。
- 長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いておく。
- 万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

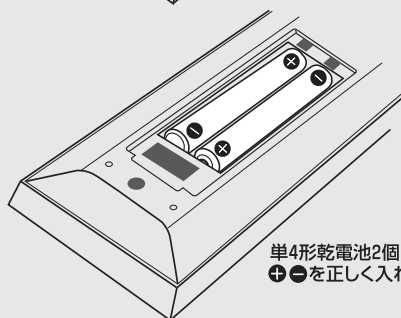
⚠ 警告

乾電池は充電しない。電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原因となります。

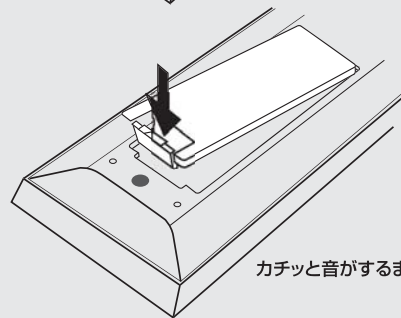
乾電池の交換



ツメを矢印の方へ押しつけて蓋を開ける。



単4形乾電池2個、
⊕ ⊖ を正しく入れる。



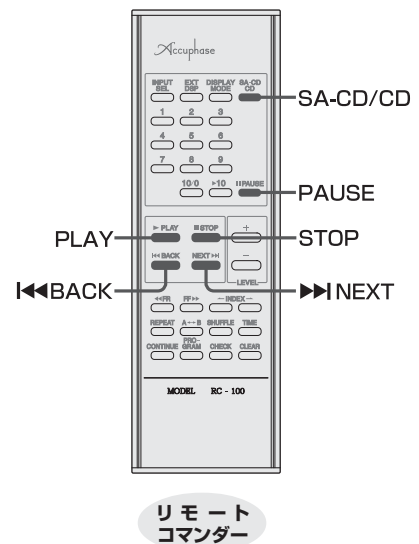
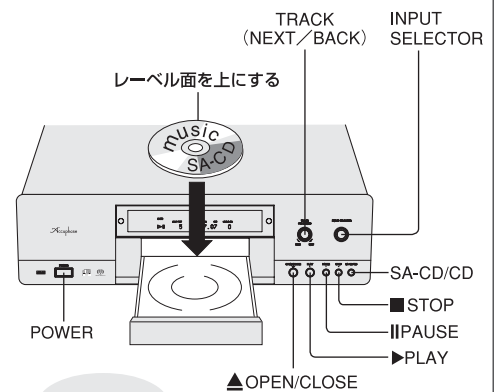
カチッと音がするまで閉める。

6. ご使用方法

通常のSA-CD/CDプレーヤーとして使用する場合

演奏の基本操作

- 1 POWERスイッチを押し、電源を入れます。
- 2 プロセッサー動作(ディスプレイ部が入力端子表示)になっている場合には、SA-CD/CDプレーヤー動作にします。
 - ① INPUT SELECTORノブを回す。(24ページ参照)
 - ② または、▶ (PLAY)、|| (PAUSE)、■ (STOP)、(SA-CD/CD) ボタンのどれか一つを押す。
- 3 ▲ (OPEN/CLOSE) ボタンを押して、ディスク・トレイを出します。
- 4 レーベル面を上にして、ディスクをテーブルにのせます。
▲ (OPEN/CLOSE) ボタンを押して、ディスク・トレイを閉じます。
- 5 ハイブリッド・ディスクの場合は、TOC読み込み後(演奏が始まった場合は (STOP) ボタンを押す)、(SA-CD/CD) ボタンを押してSA-CDかCDを選択します。
 - 前回演奏した層(SA-CDかCD)を記憶しています。
 - TOC読み込み中に、(SA-CD/CD) ボタンを押すと、ディスプレイ上の [SACD] / [CD] 表示は切り替わりますが、TOC読み込み後は元の表示に戻ってしまい、切り替えはできません。
 - 演奏中は、(STOP) ボタンを押してから切り替えます。
 - 演奏するディスクの種類に合わせて、どちらかを選びます。(ディスクの種類は、4ページ参照)
 - ハイブリッド以外のディスクは▶ (PLAY) ボタンを押すと、自動的に選択して演奏が始まります。
- 6 ▶ (PLAY) ボタンを押すと第1曲目から演奏が始まります。
- 7 最後の曲の演奏が終了すると、STOP状態になります。
- 8 ▲ (OPEN/CLOSE) ボタンを押して、ディスク・トレイを出します。ディスクを取り出したあと、ディスク・トレイは必ず閉じておいてください。



演奏中の基本操作

- 演奏停止(ストップ) …………… ■ (STOP) ボタン
- 演奏を一時停止(ポーズ) …………… || (PAUSE) ボタン(ポーズ中は ▶▶▶ 点灯)
- 一時停止をやめて演奏再開 …………… ▶ (PLAY) ボタン(演奏中は ▶▶▶ 点灯)
- 1曲先に進む …………… TRACKノブをNEXT(右回し)または▶▶▶ (NEXT) ボタン
- 演奏中の頭または1曲前に戻る … TRACKノブをBACK(左回し)または◀◀◀ (BACK) ボタン
- ディスクを取り出す …………… ▲ (OPEN/CLOSE) ボタン

※ハイブリッド(SA-CD+CD)ディスクの再生時に、聞きたい層を切り替える場合

(STOP) ボタンを押して一旦再生を止め、(SA-CD/CD) ボタンで希望の層を選択してください。

ディスプレイ部左上の表示([SACD]または[CD])が切り替わります。

機能設定：セッティング・モードの切替

使用条件やお好みに合わせて、『ディスプレイの明るさ』、『電源ON時のプレイ動作』、『自動ポーズ』の各機能を、『出荷時の初期設定』から変更することができます。また、変更した機能を初期設定に戻すことができます。

- 本体の **STOP** ボタンを2秒以上押しつづけると、セッティング・モードに入り、TRACKノブで、各種機能の選択・変更ができます。

セッティング・モード

STOP

本体の **STOP** ボタンを2秒以上押しつづける
(リモート・コマンダーではできません)

<Setting Mode>

TRACK (PUSH ENTER)

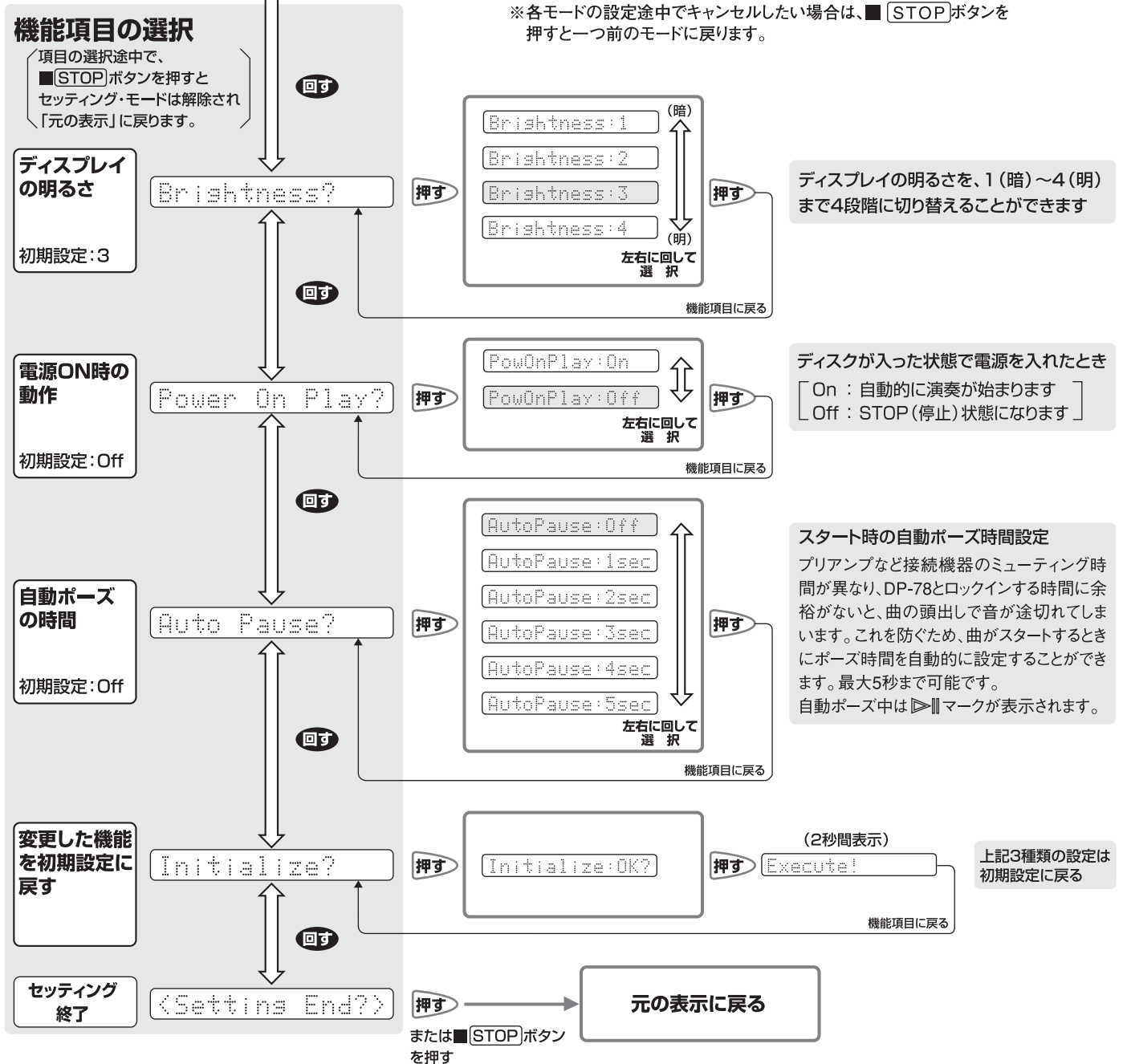
回して 選択

押して 決定

BACK NEXT

回す 押す

注意 ※アミ印の機能は出荷時(初期設定)のモードを示す。
※各モードの設定途中でキャンセルしたい場合は、**STOP** ボタンを押すと一つ前のモードに戻ります。



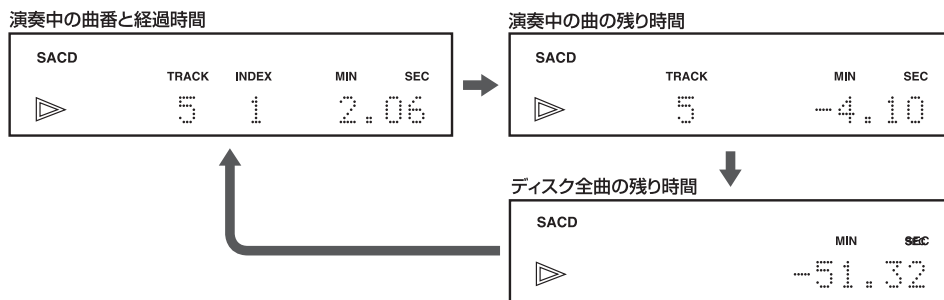
ディスプレイ部

ディスプレイ部は、ディスクや再生中の曲に関するいろいろな情報を表示します。
ディスクのストップ状態や再生中などの状態によって、表示する内容が変化します。

再生中のディスプレイ (イラストはテキスト情報OFFのディスクです)

TIME ボタンを押す

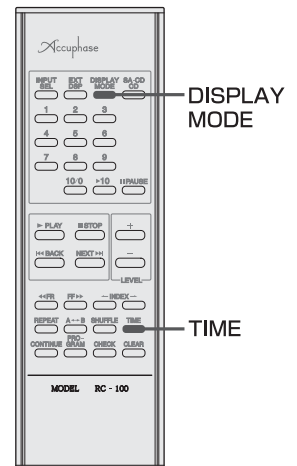
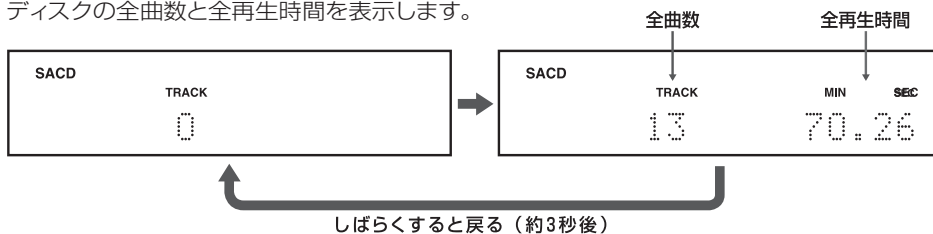
押すたびに、**演奏中の曲番と経過時間** → **演奏中の曲の残り時間** → **ディスク全曲の残り時間** を繰り返し表示します。



ストップ(停止)状態でのディスプレイ (イラストはテキスト情報OFFのディスクです)

TIME ボタンを押す

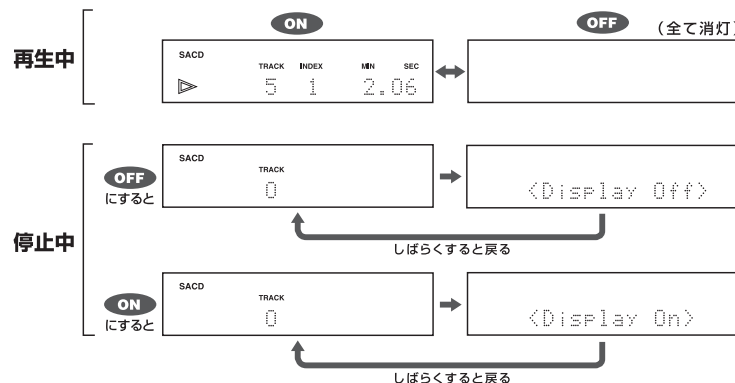
ディスクの全曲数と全再生時間を表示します。



ディスプレイ・モードの切替

DISPLAY MODE ボタンを押すたびにディスプレイの点灯(ON)/消灯(OFF)が切り替ります。

- OFFにして表示が消えるのは再生中のみで、再生を止めたり、一時停止の時は表示がつかます。再び再生を始めると表示は消えます。



注意
プロセッサ動作の場合(24ページ参照)には、OFFにしてもディスプレイは点灯のままで消灯にはなりません。

※演奏が始まると、全て消灯になります。

TEXT情報付ディスクのディスプレイ

TEXT付ディスクは、音楽信号の他にディスク名やアーティスト名などの情報が記録されています。

- TEXT付ディスクを入れると、『TEXT』が点灯し、ディスク名を表示します。
- TEXTの情報が15文字以上のときは、一度スクロール表示し、その後最初の14文字が表示されます。

注意

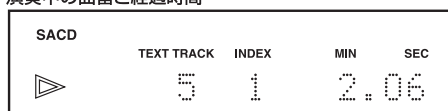
- 本機が表示できるのは、英数字だけです。日本語は表示できません。
- ディスクによっては、表示できない文字があります。
- 本機が表示できるTEXT情報は、ディスク名、アーティスト名、曲名だけです。その他の情報は表示できません。

演奏中のディスプレイ

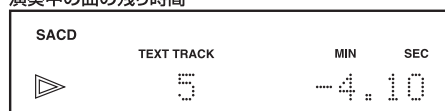
TIME ボタンを押す

押すたびに下記の表示を繰り返し表示します。

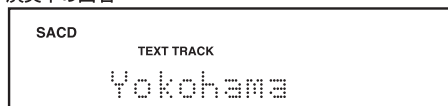
演奏中の曲番と経過時間



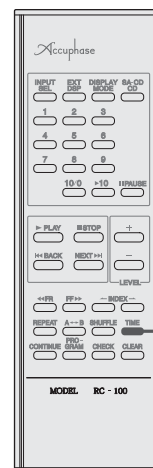
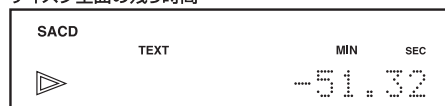
演奏中の曲の残り時間



演奏中の曲名



ディスク全曲の残り時間



TIME

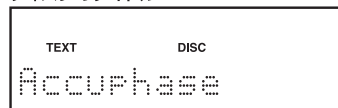
停止中のディスプレイ

TIME ボタンを押す

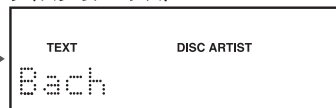
押すたびに、(ディスク名) → (アーティスト名) → (全再生時間) を繰り返し表示します。

アーティスト名表示のときは、『ARTIST』が点灯します。

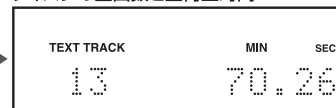
ディスクのタイトル



ディスクのアーティスト



ディスクの全曲数と全再生時間



TIME を押す、又はしばらくすると戻る

いろいろな演奏方法

途中で演奏を中止するには

◎一時停止は

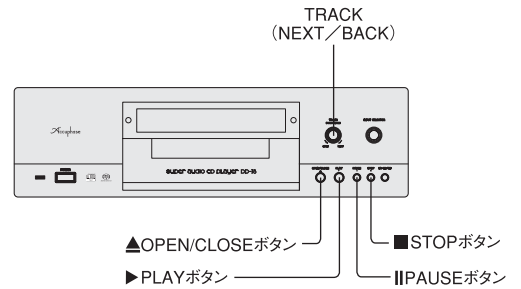
|| (PAUSE) ボタンを押します。▶| マークが点灯して演奏は停止します。一時停止を解除するときは、再度 || (PAUSE) ボタンまたは ▶ (PLAY) ボタンを押してください。停止したところから演奏が始まります。

◎演奏を止めるには

■ (STOP) ボタンを押します。■ (STOP) ボタンを押した場合は、続きの演奏はできません。

◎ディスクを取り出すときは

演奏途中でも、▲ (OPEN/CLOSE) ボタンを押します。



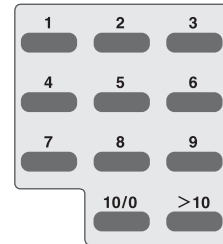
演奏を直ちに開始しないとき

◎ディスクを置いてから、▲ (OPEN/CLOSE) ボタンを押すと、ディスク・トレイが閉じてスタンバイ状態になります。

トラック(曲)を指定して演奏

◎演奏中やポーズ(一時停止)、ストップ状態のとき、**ダイレクトプレイ** ボタンを使うと、指定の曲の頭から演奏を開始することができます。トラック(曲)の番号を直接押して選曲します。

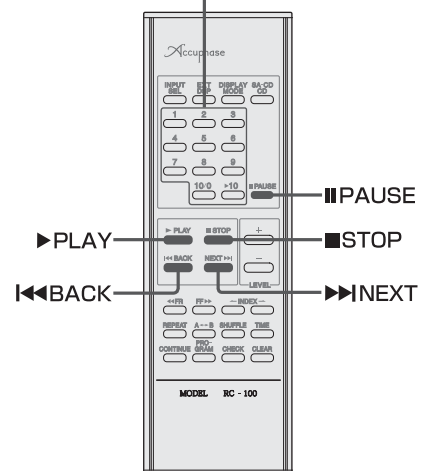
ダイレクトプレイ・ボタン



- (1) ~ (9) その番号の曲から演奏開始
 - (10/0) 10曲目を演奏
 - 11曲目以降の演奏は (>10) ボタンを使用します
- 例： 15曲目の演奏 …… (>10) → (1) → (5)
 30曲目の演奏 …… (>10) → (3) → (10/0)
 100曲目の演奏 …… (>10) → (>10) → (1) → (10/0) → (10/0)

※ディスクに入っている曲数以上の選曲はできません。

- ◎演奏中に、◀◀ (BACK) / ▶▶ (NEXT) ボタンを使って、任意の曲を選択します。
- ◎ポーズ(一時停止)中にダイレクトプレイ・ボタンを押すと、押した曲の頭でポーズのままになります。
- ◎ポーズ(一時停止)のとき、◀◀ (BACK) / ▶▶ (NEXT) ボタンを使って、任意の曲を選択し、▶ (PLAY) ボタンを押します。



曲の途中の演奏したい部分を探す

演奏中に探す

- ◀◀ (FR) / ▶▶ (FF) ボタンを押し続けます。
再生音が断続的に聞えますので、希望の部分に近づいたら、ボタンを離します。
その部分から演奏を始めます。

ポーズ(一時停止)中に探す

- ◀◀ (FR) / ▶▶ (FF) ボタンを押し続けます。
再生音は聞えません。
時間表示をみながら、希望の部分に近づいたらボタンを離します。
その部分で一時停止になります。

インデックスで探す: インデックス・サーチ

演奏中または一時停止中に、インデックス・サーチ・ボタンを使用すると、希望のインデックス番号の先頭から演奏を始めることができます。

◀ (INDEX) ボタン

押すごとに、前のインデックスの先頭に戻ります。
一回押すと、演奏しているインデックスの頭に戻ります。

▶ (INDEX) ボタン

押すごとに、次のインデックスの先頭に進みます。
INDEXがないディスクの場合、INDEX番号は「1」を表示して演奏します。

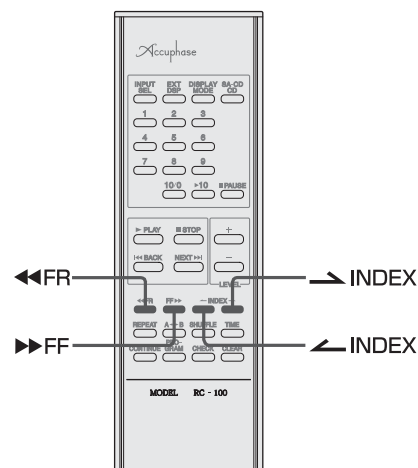
INDEXとは…

1曲の中で、いくつかの部分に区切って番号を付けたものです。
インデックス付のディスクには、表示がついています。
インデックス・サーチは、インデックス付ディスクで有効です。

注意

ディスプレイに ◀Over!!! と表示されたときは…

最後の曲の終わりまで進んでいますから ◀◀ (BACK) ボタンまたは ◀◀ (FR) ボタンで戻してください。



リピート（繰り返し）演奏

ディスク全曲／1曲／指定した特定部分の繰り返し演奏ができます。

- シャッフル再生やプログラム再生のときでも可能です。
- 全曲および1曲リピートは、本機の電源を切っても記憶されます。
ただし、A⇔Bリピートは、電源を切ると消去されます。

ディスク全曲の繰り返し演奏：全曲リピート

REPEAT ボタンを1回押して、**▶** **PLAY** ボタンを押す。再生中でも可能です。
ディスプレイ上に **< Repeat >** と表示され、『**REPEAT**』が点灯し、
全曲リピートが始まります。

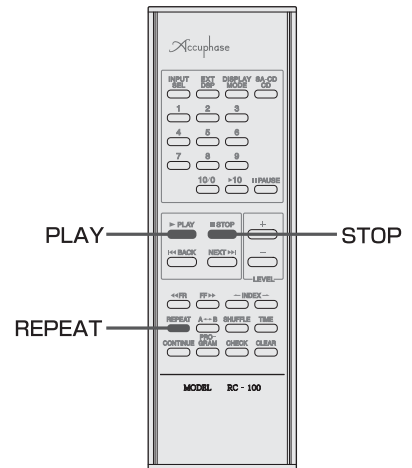
通常の再生の場合 …………… 全曲を順番に再生
シャッフル再生の場合 …… 繰り返すたびに曲番が変わる
プログラム再生 …………… プログラムの曲順に再生

全曲リピートを中断するには…

- **STOP** ボタンを押す。
再び **▶** **PLAY** ボタンを押すと、全曲リピートが始まります。

通常の演奏に戻すには…

- REPEAT** ボタンを2回押します。
< Repeat off > と表示され、『**REPEAT**』が消灯し、全曲リピートは解除されます。



1曲の繰り返し演奏：1曲リピート

繰り返したい曲の再生中に、**< Repeat 1 >** と表示されるまで **REPEAT** ボタンを繰り返し押す。
『**REPEAT1**』が点灯して、1曲リピートが始まります。

1曲リピートを中断するには…

- **STOP** ボタンを押す。
再び **▶** **PLAY** ボタンを押すと、1曲リピートが始まります。

通常の演奏に戻すには…

- REPEAT** ボタンを1回押します。
< Repeat off > と表示され、『**REPEAT1**』が消灯し、1曲リピートは解除されます。

1 曲中の指定区間の繰り返し演奏:A↔Bリピート

1曲中で聞きたい部分を指定し、そこだけを繰り返し演奏することができます。

- 1 演奏中に、繰り返しの始点(A点)で **(A↔B)** ボタンを押す。
ディスプレイ上の『REPEAT』が点灯し、『A』が点滅します。
- 2 そのまま演奏を続けて、繰り返しの終点(B点)で **(A↔B)** ボタンを押す。
『REPEAT A-B』が点灯し、A↔Bリピートが始まります。
●▶▶ **(FF)** ボタンを使うと、手早くB点を決めることができます。

(A↔B) リピートを中止するには…

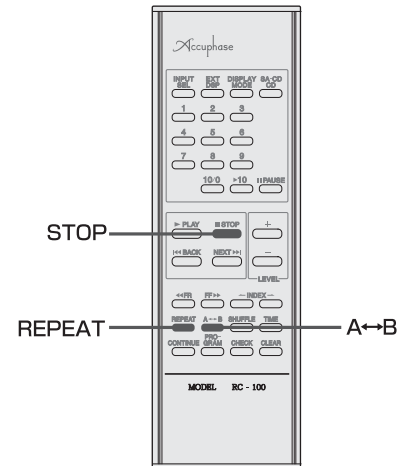
(REPEAT) ボタンまたは ■ **(STOP)** ボタンを押すと、A↔Bリピートは解除されます。

繰り返す指定区間を変更し先に進めるには…

- 1 A↔Bリピート演奏中に、**(A↔B)** ボタンを押す。
ディスプレイ上の『REPEAT』が点灯し、『A』が点滅します。今の終点が始点(A点)に変わります。
- 2 そのまま演奏を続けて、新しい繰り返しの終点(B点)で **(A↔B)** ボタンを押す。
『REPEAT A-B』が点灯し、新たに指定したA↔Bリピートが始まります。

注意

1曲の範囲を超えて指定することはできません。



シャッフル演奏

ランダムに選曲し、全曲を1回ずつ演奏します。

- 1 停止中に、**(SHUFFLE)** ボタンを押す。
ディスプレイ上の『SHUF』が点灯します。
- 2 ▶ **(PLAY)** ボタンを押す。
シャッフル演奏が始まります。
次に演奏する曲が決まる間は、ディスプレイに **(SHUFFLING!)** と表示します。
全曲をランダムに1回ずつ演奏が終わると停止します。

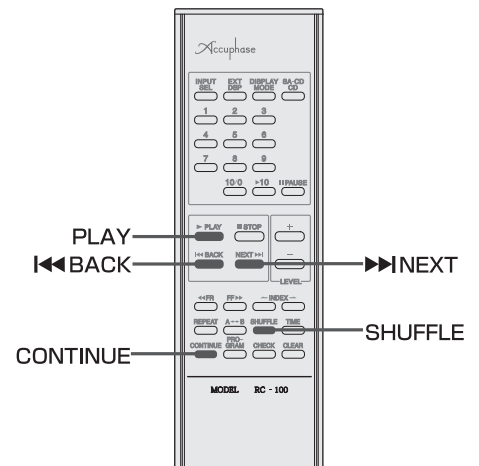
通常の演奏に戻すには…

(CONTINUE) ボタンを押す。

次に演奏する曲を頭出しできます。

- ▶▶ **(NEXT)** ボタンを押すと、次に演奏する曲の頭出しをします。
- ◀◀ **(BACK)** ボタンを押すと、演奏している曲の頭に戻ります。すでに演奏が終わっている曲には戻りません。

※REPEATとSHUFFLEを両方設定することができます。



プログラム演奏

自分でプログラムして、聴きたい曲だけを好きな順序で演奏を楽しむことができます。
プログラムには、32曲(または合計時間999分59秒)まで登録することができます。

プログラムするには

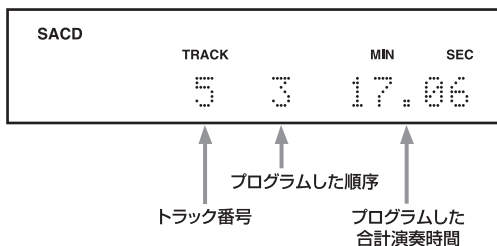
1 停止中に、**PROGRAM** ボタンを押す。

- 『PROG』が点灯してプログラム開始可能となります。
- 演奏中や一時停止中でもセットできますが、その過程は表示されません。

2 ダイレクトプレイ・ボタンを押して、曲番を入力する。

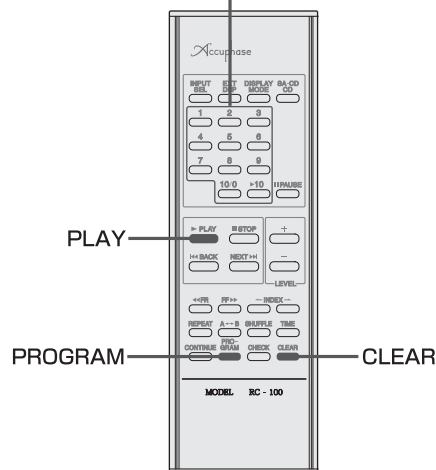
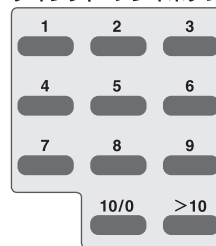
ボタンを押して曲番を入力すると、トラック番号、プログラムした順序、プログラムした曲の合計演奏時間が表示されます。

- 曲番を押しまちがえたときは、**CLEAR** ボタンを押してもう一度入力します。
- 11曲目以降の入力は、**>10** を使用します。(16ページ参照)



3 プログラムが終わったら、▶ **PLAY** ボタンを押す。
プログラムした順序で演奏が始まります。

ダイレクト・プレイボタン



普通の再生に戻すには

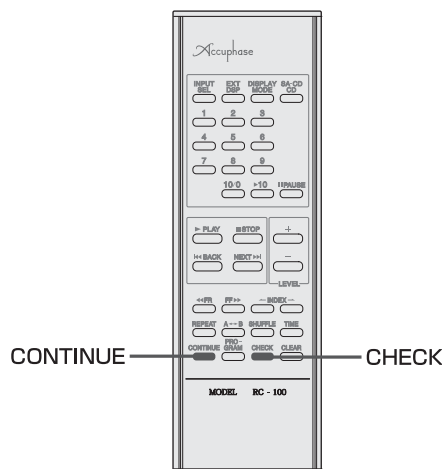
CONTINUE ボタンを押します。

プログラムの演奏順序や曲数がチェックできる

演奏の前や演奏中に、**CHECK** ボタンを1回押す度に、プログラムした第1曲目から順番に曲番とその曲の合計時間がディスプレイされます。演奏中はそれ以降の曲のプログラムから表示します。

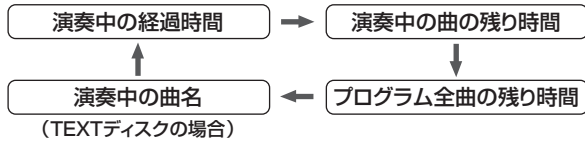
そのままにしておけば、2秒後に解除されて、ボタンが押される前の状態に復帰します。

※プログラムした曲の最後になると **< Prog END >** と表示します。



プログラム演奏中に TIME ボタンを押すと

押すたびに、下記のように繰り返し表示します。



プログラムした内容を変更する

演奏を始める前、または ■ (STOP) ボタンを押して停止中のとき、プログラムの内容を変更できます。

※PLAY(演奏)中やPAUSE(一時停止)中にはできません。

●プログラムした途中の曲を削除したいときは

■ (STOP) ボタンを押します。

(CHECK) ボタンを使って削除したい曲番を表示させ、(CLEAR) ボタンを押します。

●プログラムした最後の曲から削除する

(CLEAR) ボタンを押す。

押すたびに、プログラムした最後の曲から消えます。

●プログラムの最後に追加する

◀◀ (BACK) / ▶▶ (NEXT) ボタンを押して、追加したい曲を選びプログラム (PROGRAM) ボタンを押します。

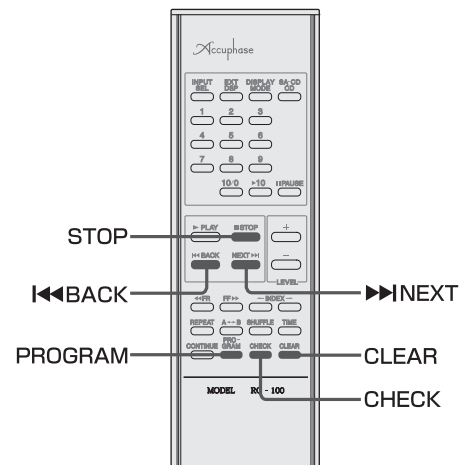
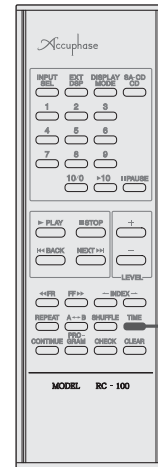
または、リモート・コマンダーのダイレクト・プレイボタンで、追加したい曲番を押します。

●セットしたプログラムをすべて削除したいときは

(CLEAR) ボタンを < Prog CLEAR > と表示されるまで押し続けます。

プログラム演奏のご注意

- ▼演奏が終ってもプログラムは残っています。▶ (PLAY) ボタンを押すと再び演奏が始まります。
- ▼本機の電源を切ったりディスク・トレイを開けるとプログラムは消えます。
- ▼プログラム演奏中に ■ (STOP) ボタンを押すと、演奏は停止しますが、プログラムは解除されません。
- ▼プログラム演奏中に◀◀ (BACK) / ▶▶ (NEXT) ボタンを用いれば、プログラム順序に従って、戻り/送りされ、希望のトラックの頭から演奏開始ができます。
- ▼プログラム演奏中にダイレクトプレイ・ボタンは作動しません。
- ▼REPEAT(繰り返し)演奏は、プログラム演奏中やプログラム中であってもセット可能ですが、A⇄B REPEATはできません。
- ▼プログラム演奏中においても INDEX(インデックス)ボタンを使用して演奏を楽しむことができます。



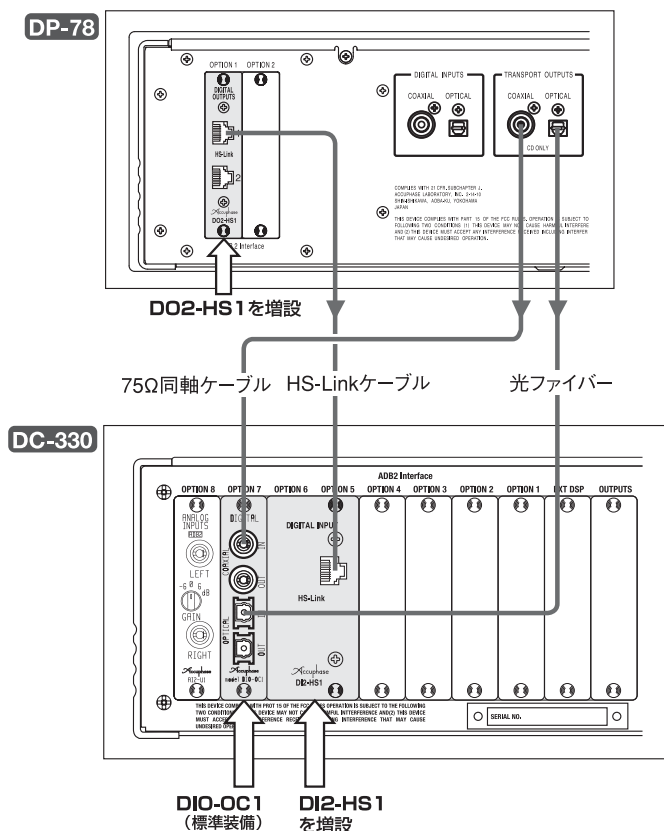
DP-78のトランスポートを活用する接続例

DC-330に接続

DP-78のTRANSPORT OUTPUTS端子または、オプションスロットにHS-Link出力ボードDO2-HS1を増設し、DC-330を接続します。

- *HS-Linkの接続でSA-CD/CDの演奏が可能です。但しHS-Linkで伝送した信号は、DC-330に増設したオプション・ボードから、デジタル／アナログとも録音はできません。
- *COAXIAL (同軸)、光ファイバー端子はCDのみの演奏が可能です。また、DC-330に増設したオプション・ボードからの録音が可能です。
- *COAXIAL (同軸)、光ファイバー端子は、直接デジタル・レコーダーと接続してCDのみの録音ができます。

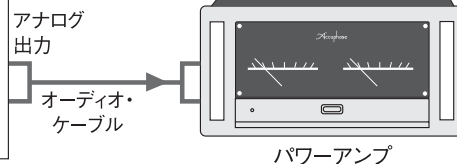
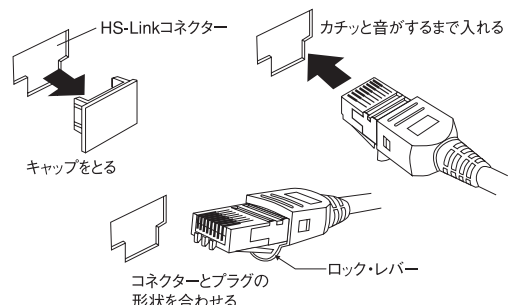
接続例



HS-Linkケーブルの接続

*HS-Linkケーブルは別売
(32ページ参照)

本体のHS-Linkコネクターのキャップを取り外し、HS-Linkケーブルのプラグを端子の形状に合わせて、カチッと音がするまでまっすぐに差し込みます。抜くときは、プラグのロック・レバーを押しながら、軽く引き抜いてください。



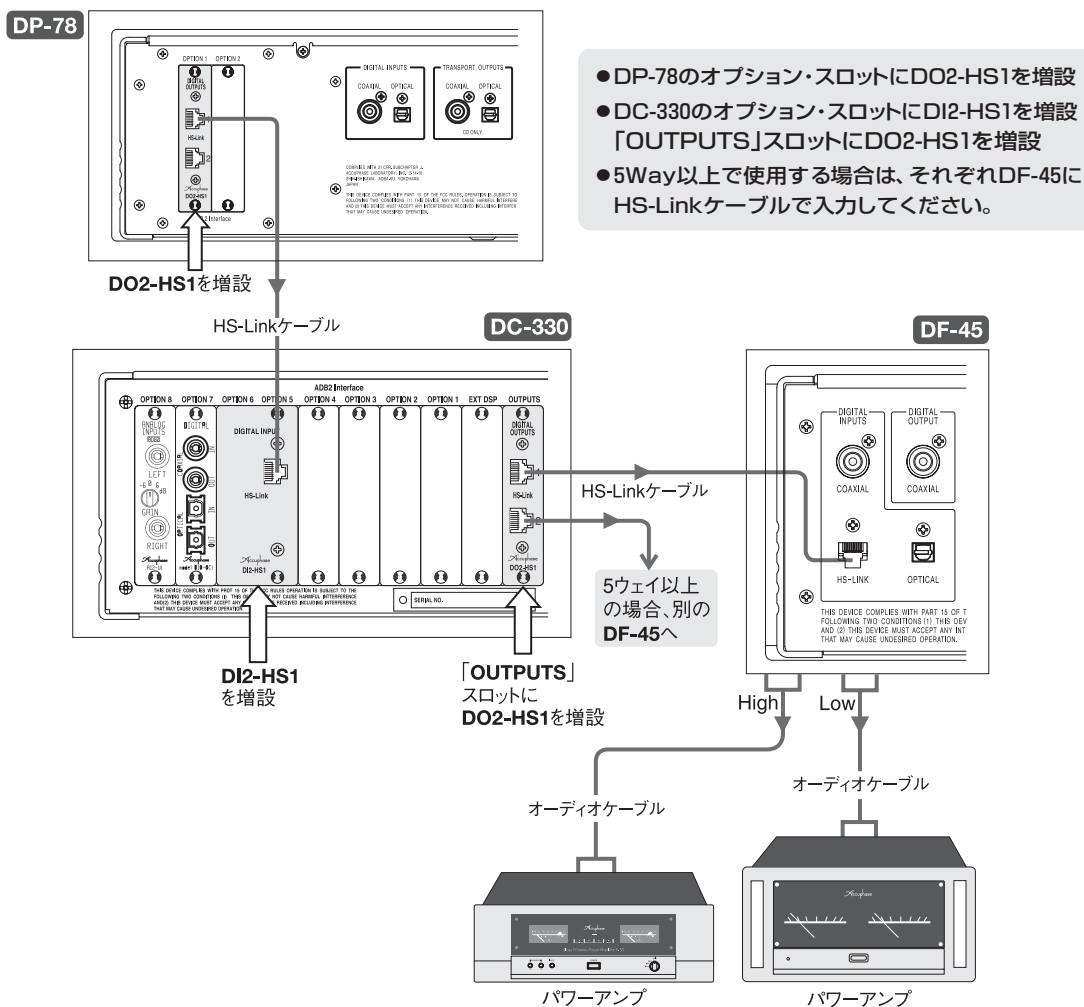
操作手順

- 1 本機と共にDC-330、パワーアンプの電源を“ON”にします。
- 2 DC-330の入力セレクターで、DP-78を接続した入力ポジションを選択します。
- 3 DP-78を演奏状態にして、DC-330のVOLUMEを上げると演奏が聞こえてきます。

DP-78とDC-330, DF-45をデジタルで接続

HS-Linkにより、**DP-78** → **DC-330** → **DF-45**とパワーアンプ直前までデジタル接続でのマルチアンプ・システムが可能になります。それぞれの機種はHS-Linkケーブルで接続します。

※DF-45との詳しい接続はDF-45の説明書を参照してください。



注意

- DC-330へHS-Linkで入力したSA-CD/CD信号は、HS-Link以外の接続でデジタル伝送できません。したがって、「OUTPUTSスロット」にHS-Link以外のデジタル出力用ボード(DIO-OC1など)を増設しても、出力はありません。

DC-101に接続

- HS-Linkでの接続例は7ページ参照

DP-78のTRANSPORT OUTPUTS端子とDC-101を接続します。

- * DP-78のオプションスロットにHS-Link出力ボードDO2-HS1を増設し、HS-Linkの接続でSA-CD/CDの演奏が可能です。但しHS-Linkで伝送した信号は、DC-101に増設したオプション・ボードから、デジタル/アナログとも録音はできません。
- * 光ファイバーおよびCOAXIAL(同軸)端子はCDのみの演奏が可能です。また、DC-101に増設したオプション・ボードからの録音が可能です。

デジタル・プロセッサとして使用する場合

- 1 CDトランスポート、MD、DATなどのデジタル出力端子と本機のDIGITAL INPUT端子または増設したオプションのINPUT端子を接続します。
- 2 各機器の電源を入れる。
- 3 本体のINPUT SELECTORノブを回す、またはリモートコマンドのボタンを押して、接続した外部入力機器を選択します。入力信号をロックインすると2秒間と表示します。
- 4 外部入力機器の操作にて演奏をお楽しみ下さい。

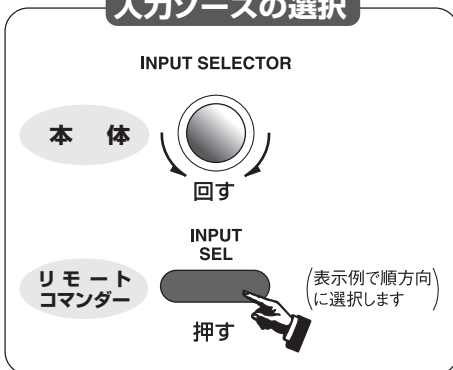
注意

- 入力セレクターでプロセッサ動作に切り替えると、本機のトランスポート動作は停止(STOP状態)します。
- サンプリング周波数のレベル精度が変動する入力、音が途切れることがあります。

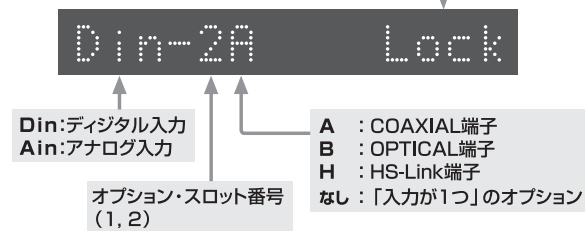
※SA-CD/CDプレーヤー動作に戻るには

- ① INPUT SELECTORノブを回す。
- ② または▶ 、|| 、、ボタンのどれか一つを押す。

入力ソースの選択



オプション入力の表示例



Lock表示

- ロックインすると2秒間表示

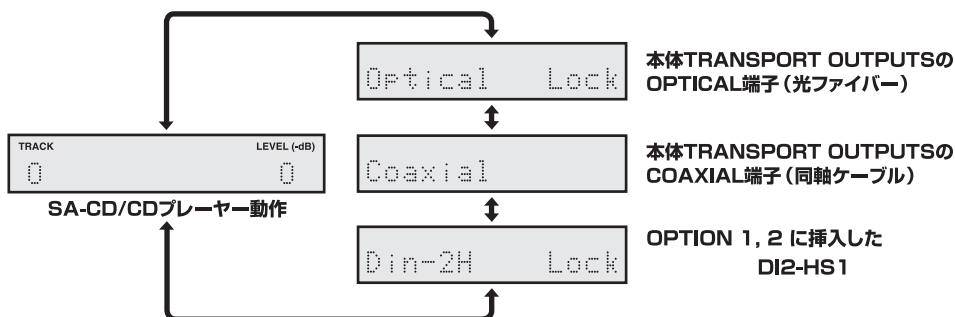
Lock表示なし

- 入力端子に機器が接続されていないとき
- 入力信号にロックされないとき
- ミュート動作中 (電源ON時や入力切替時)

入力ソースの表示例

(25ページのイラスト例参照)

- Digital InputのOPTICAL端子 : 光ファイバーで接続
 - Digital InputのCOAXIAL端子 : 接続していない
 - OPTION 1, 2 (2スロット使用) : DI2-HS1 (HS-Linkケーブルで接続)
- の場合



オプション・スロット番号の表示:
オプション・ボードを挿入していない場合や出力専用ボードの時は、スキップされ表示されません。

- ※「2スロット」使用するボード(DI2-HS1)の場合
OPTION 1, 2に挿入:スロット番号は「2H」を表示
- ※「入力が1つ」のオプション(DI2-HS1以外)の場合には、
A, B, Hの英文字が消えて、
 の表示になります。

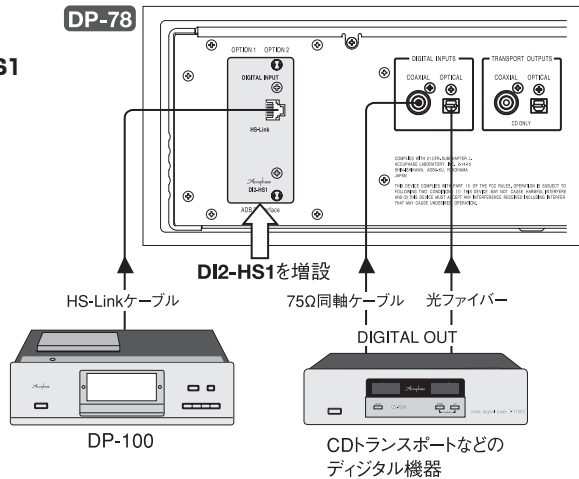
SA-CD/CD、MD、DATなどをデジタル入力で演奏

DP-100、CD、MD、DATなどをデジタルで接続します。

接続例

OPTION 1, 2 : DI2-HS1

DIGITAL INPUTSまたは
オプション・ボードのIN
↕
ソース側デジタル機器の
DIGITAL OUT



デジタル入力のあるオプション

- デジタル入・出力ボード (DIO-OC1)
- HPCオプティカル入・出力ボード (DIO-ST1)
- AES/EBU入・出力ボード (DIO-PRO1) 2スロット
- HS-Link入力ボード (DI2-HS1) 2スロット

操作手順

- ① 本機と共に入力機器、パワーアンプの電源を“ON”にします。
- ② DP-78の入力セレクターで接続した入力端子を選択(24ページの表示例参照)します。
- ③ 入力機器を演奏状態にして、ボリュームを上げると演奏が聴こえてきます。

接続ケーブル

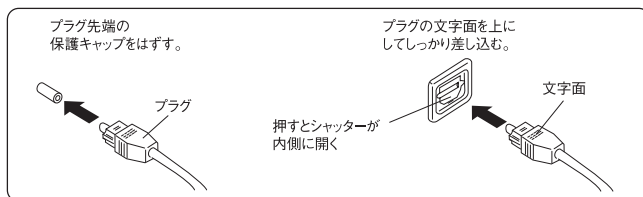
※HS-Linkケーブルは22ページ参照。

COAXIAL DIO-OC1

ピンプラグ付75Ω同軸ケーブル(別売:DL-15等)で接続してください。

OPTICAL DIO-OC1

JEITA規格の光ファイバー接続用端子です。



HPC OPTICAL:ST DIO-ST1

STタイプの光ファイバー(市販)で接続してください。

※STは、AT&T社の登録商標です。

AES/EBU DIO-PRO1

AES/EBU規格に対応したXLRコネクター付ケーブル(市販)で接続してください。

注意

- 光ファイバーは、曲げなどの力には非常に弱く、断線する場合があります。長さに余裕があるときは、セットの後ろで丸く(直径10cm以上)束ねておいてください。決して強く曲げないでください。もちろん、切断、再加工などはできません。
- 光ファイバーは、コア(芯材)に光信号が通ります。プラグの先端のキズ、汚れ、レセプタクルの中の異物は、大敵です。使用しない時には、必ずキャップを付けておいてください。
- 光ファイバーの抜き差しは、プラグをしっかり持って行かない、ファイバーを引っ張らないように注意しましょう。

デジタル・レコーダーで録音・再生をする場合

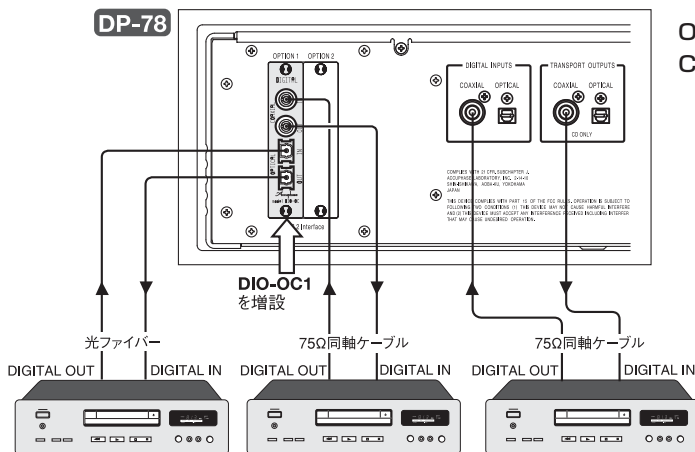
デジタル・レコーダーを接続して、録音・再生ができます。

- 注意**
- TRANSPORT OUTPUTS端子には、本機のCDデジタル信号が出力され録音可能になります。ただし、INPUT SELECTORでプロセッサ動作に切り替えると、本機のトランスポート動作は停止(STOP状態)するため録音できません。
 - 各オプションのOUTPUTS端子には、INPUT SELECTORで選択した(現在演奏している)ソースが出力され、録音可能になります。ただし、本機のSA-CD再生信号は、各オプションのOUTPUT端子には出力されないため録音はできません。

接続例

オプション・ボードのDIGITAL "IN" 端子 (または本機のDIGITAL INPUTS端子) ⇔ レコーダーの "DIGITAL OUT"

オプション・ボードのDIGITAL "OUT" 端子 (または本機のTRANSPORT OUTPUTS端子) ⇔ レコーダーの "DIGITAL IN"



CD-R, DAT, MDなどのデジタル・レコーダー

OPTICAL : 光ファイバーで接続
COAXIAL : 75Ω同軸ケーブルで接続

録音・再生 : デジタル入・出力のあるオプション

- デジタル入・出力ボード (DIO-OC1)
- HPCオプティカル入・出力ボード (DIO-ST1)
- AES/EBU入・出力ボード (DIO-PRO1)

* 同一ボード内では、“IN”端子の入力信号は“OUT”端子に出力されません。
ただし、デジタル入・出力ボード[DIO-OC1]の場合、COAXIAL(同軸)に入力すれば、OPTICAL(光)に出力され、OPTICAL(光)に入力すれば、COAXIAL(同軸)に出力されます。

再生: プレイバック

レコーダーを再生状態にして、INPUT SELECTORで接続したソース(入力端子)に合わせれば再生音を聴くことができます。

録音: レコーディング

オプション・ボードへ接続したレコーダーは、次の手順で操作をしてください。

- ① 録音したいプログラム・ソースをINPUT SELECTORで選択し、スピーカーから音を出して確認します。
- ② この信号がオプション・ボードの各OUTPUT端子からレコーダーへ出力されます。
- ③ レコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。
- ④ 本機のデジタル出力(リモートコマンダーのLEVEL)は、録音される音量には関係しません。
- ⑤ オプションのOUTPUT端子全てに同じ信号が出力されますので、接続してあるレコーダー(但し、録音側のサンプリング周波数に注意)で同時録音も可能です。

注意

- * デジタル録音の場合、SCMS(シリアルコピー・マネジメント・システム)により、一度デジタル録音で作成したソースは他のDATやMDにデジタルで録音することはできません。
- * デジタル録音の場合は、レコーダーの種類によって、録音側のサンプリング周波数を確認します。基本的には、ソース側とレコーダー側のサンプリング周波数が合わないと録音はできません。
- サンプリング周波数96kHz以上のソースは、レコーダーが対応していないとは録音できません。
- MD, CD-Rへのデジタル録音は、サンプリング周波数が44.1kHzです。32kHzまたは48kHzのソースは、レコーダー側で44.1kHzに自動変換します。(一部の機種を除く)
- DATは、ソース側の周波数を自動的に変換したり、追従して録音できる機種もありますので、それぞれの取扱説明書をご参照ください。

DG-38やDG-28との接続例

デジタルでの接続例

デジタル・ヴォイシング・イコライザーDG-38やDG-28を接続して、デジタル信号での音場補正が可能になります。

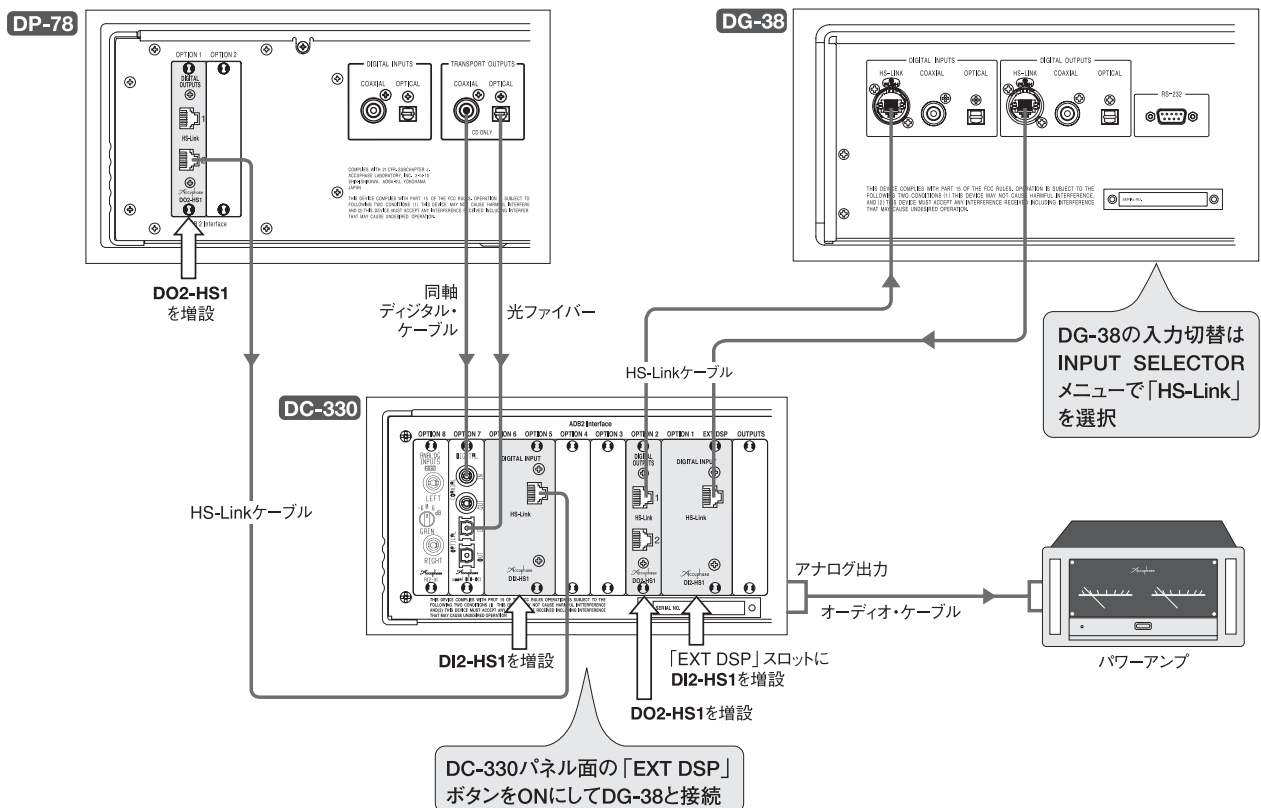
接続例1 …DG-38を接続してDP-78のSA-CD/CD演奏の場合

HS-LinkではSA-CD/CDの演奏ができ、COAXIAL(同軸)とOPTION(光ファイバー)はCDのみの演奏となります。

※DG-28はHS-Linkに対応していないため、接続例2(28ページ)を参照。

注意

- DC-330**
- DIO-OC1、DIO-ST1をEXT DSPスロットに増設して接続した場合、CDのみの演奏になります。SA-CDはロックしません。
 - 「EXT DSP」へ増設するDI2-HS1は2スロット使用するため、左隣のOPTION 1も使用します。

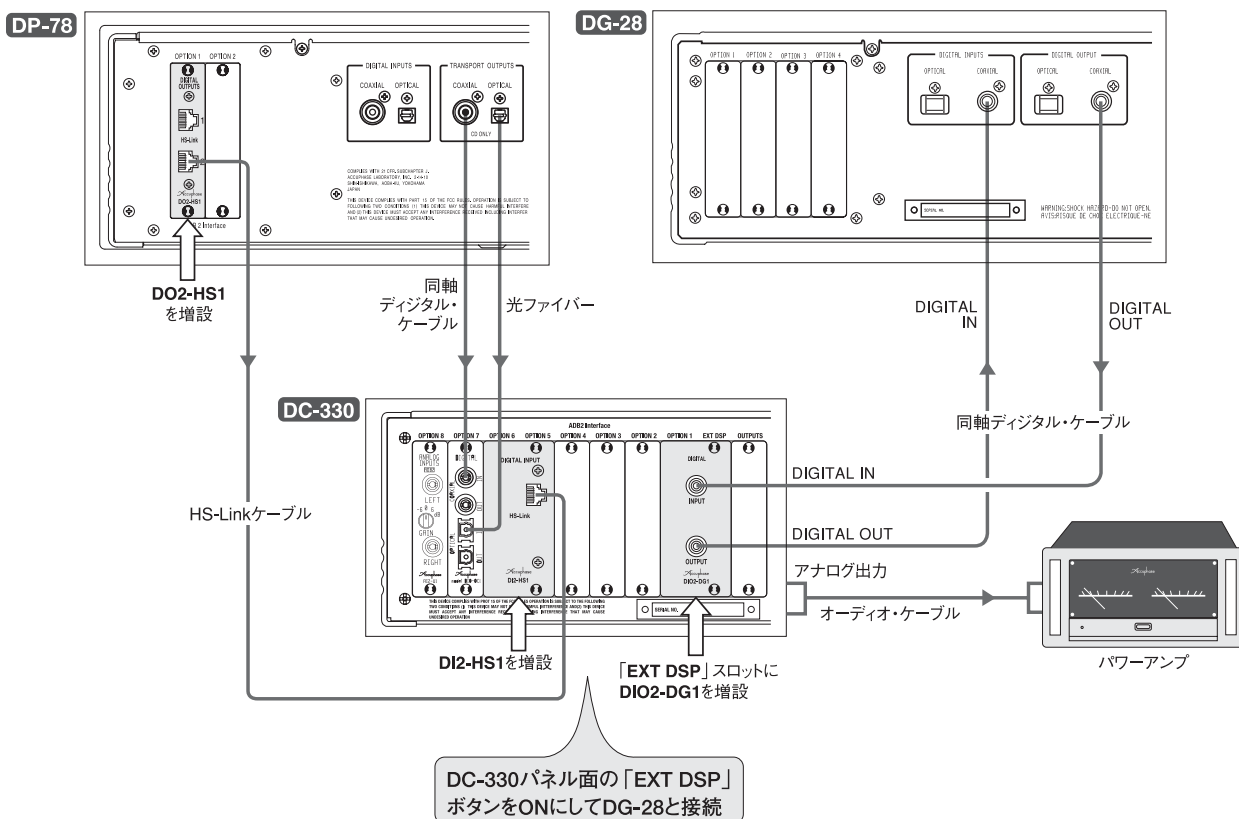


接続例2 …DG-28を接続して、DP-78のSA-CD/CD演奏の場合

DG-28を接続する場合は、イラストのようにDC-330の「EXT DSP」スロットに広帯域デジタル入・出力ボード〔DIO2-DG1〕を増設します。

注意

- DC-330に増設する「DIO2-DG1」は2スロット使用するため、左隣のOPTION 1も使用します。

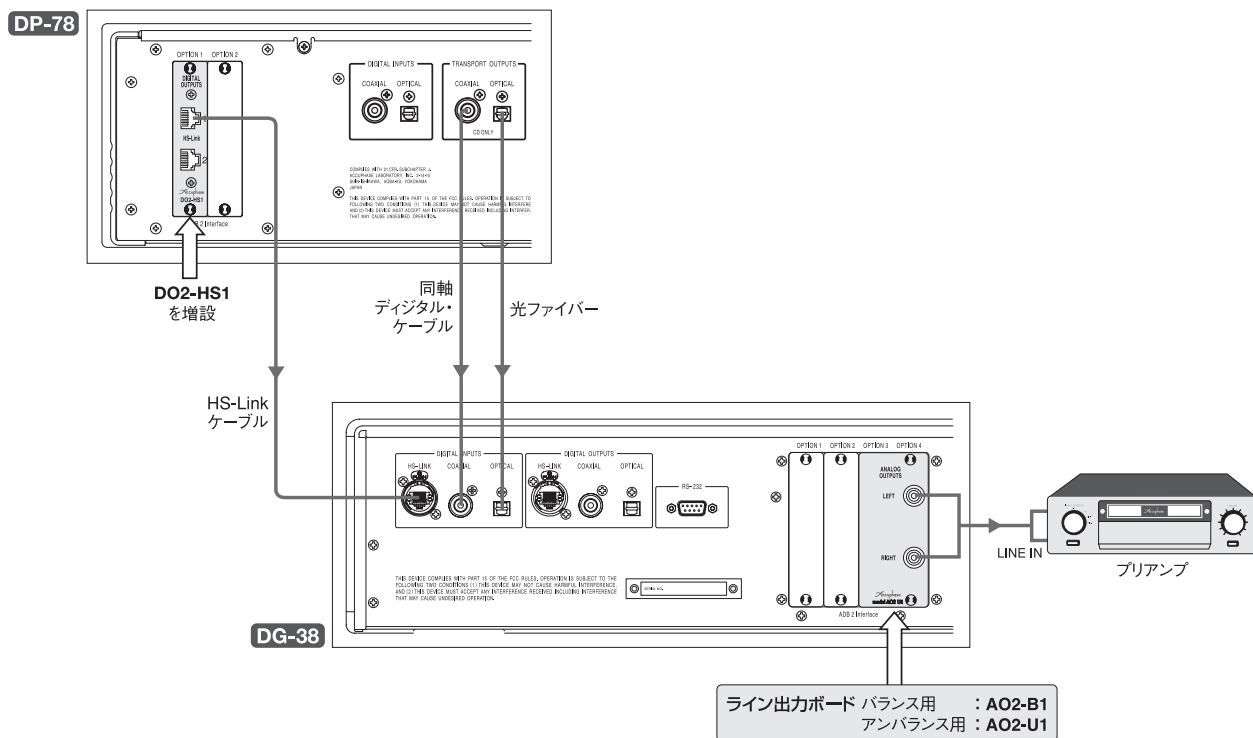


メモ

DC-330に入った広帯域ハイサンプリング・デジタル信号は、『EXT DSP』スロットに増設されたDIO2-DG1内部で、サンプリング周波数48kHz(または44.1kHz)に変換して、24kHz(または22.05kHz)までの可聴帯域成分だけをDG-28に送りイコライジングします。24kHz(または22.05kHz)以上の成分は、ハイパス・フィルターによってDG-28に送らずにバイパスします。DG-28でイコライジング処理した信号と、バイパスした信号をDIO2-DG1ボード内で合成して、DC-330にデジタル信号で戻し、D/Aコンバーターを通過してアナログ出力します。

接続例3 …DP-78を直接DG-38に接続した場合

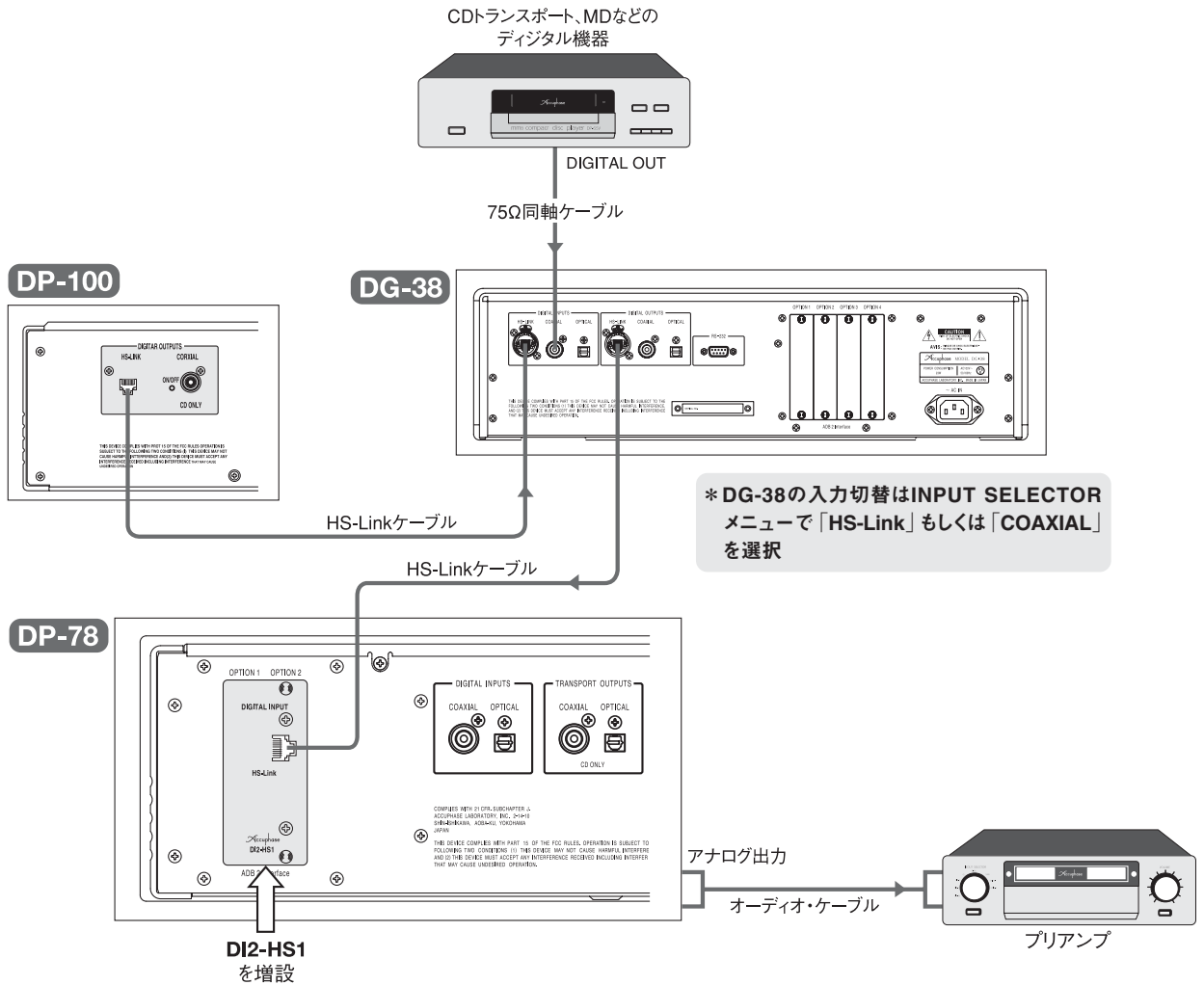
HS-LinkではSA-CD/CDの演奏が可能ですが、COAXIAL(同軸)とOPTICAL(光ファイバー)はCDのみの演奏となります。



DG-38の入力切替は、INPUT SELECTORメニューで選択

- HS-Linkケーブル : HS-Link
- 光ファイバー : OPTICAL
- 同軸デジタルケーブル : COAXIAL

接続例4 …DG-38との接続に、DP-78のデジタル・プロセッサ部を使用する場合



DP-78ディスプレイ部の表示例

INPUT SELECTOR



回して入力ソースを選択
(イラスト例のように、DG-38をHS-Linkで入力した場合)

Din-2H Lock

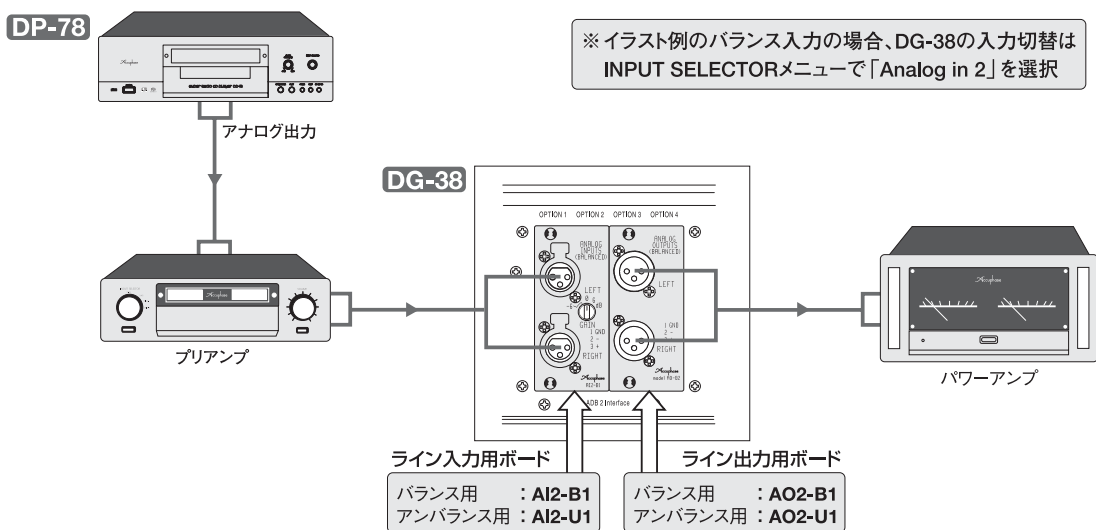
↓ (2秒後Lock消灯)

Din-2H

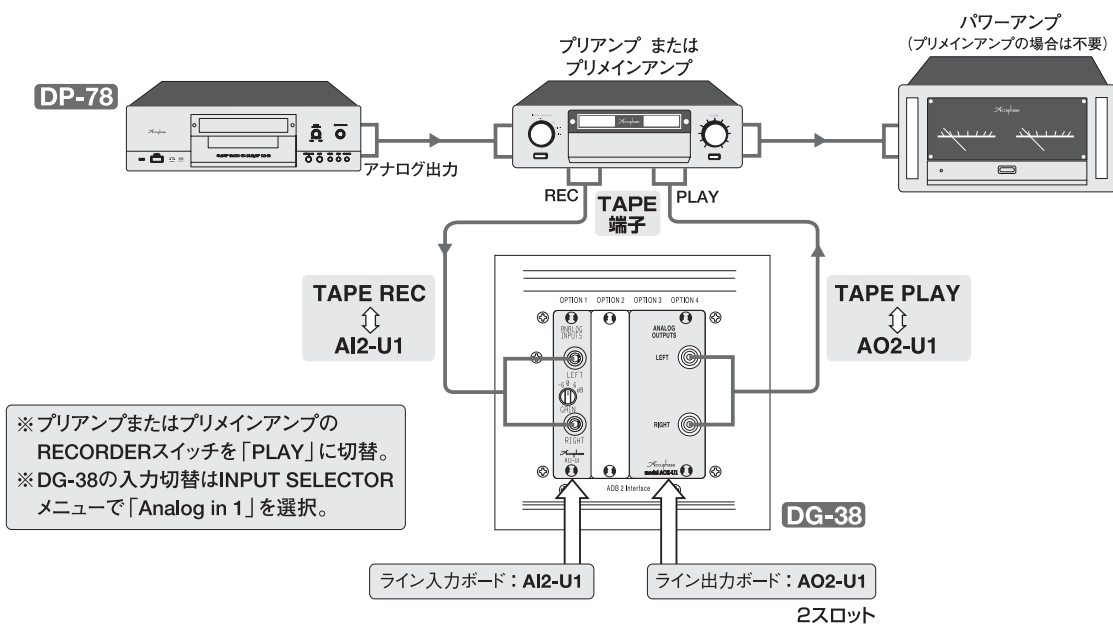
アナログでの接続例

- DG-38をアナログ接続する場合は、下図のようにオプションの「ライン入力ボード」と「ライン出力ボード」を増設します。
 - DG-28を接続する場合は、オプション・スロットに『DG-28用広帯域アナログ入・出力ボード』AIO-DGU1(アンバランス用)またはAIO-DGB1(バランス用)を増設してください。
- ※オプションの種類は35ページを参照

接続例1 …DG-38をプリアンプとパワーアンプの間に接続します。



接続例2 …プリアンプまたはプリメインアンプのTAPE端子とDG-38を接続します。



7. DP-78を活用するオプション

DP-78は一体型SA-CD/CDプレーヤーですが、トランスポート部とデジタル・プロセッサ部を完全に分離、トランスポートを活用するTransport Outputs端子、プロセッサを活用できるDigital Inputs端子を装備しています。その他のデジタル入力/録音出力端子はオプション・ボードで対応します。このため本機は、ADB 2インターフェース規格のオプション・スロットを装備しています。

このスロットにオプション・ボードを増設すれば、外部デジタル機器の接続が可能になります。豊富なオプションが用意されていますので、用途に応じて増設してください。

- 空いている任意のスロットに、任意のオプション・ボードを増設することができます。
- SA-CDデジタル信号は、著作権保護のため、増設したデジタル入・出力ボード(DIO-OC1等)のOUTPUT端子には、出力されず録音もできません。HS-Linkで出力したSA-CD/CD信号もデジタル録音はできません。
- DC-330、DP-85、DP-77、DP-75V、DG-38、DF-35等に使用している、オプション・ボードと共通で使用できます。

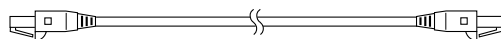
オプション・ボードのサンプリング周波数対応状況

デジタル・ボードの種類	最大48kHz	最大96kHz	
HPCオプティカル入・出力ボード DIO-ST1	○	○	
デジタル入・出力ボード DIO-OC1	○	○	
AES/EBU入・出力ボード DIO-PRO1	IN ○	○	○：対応可 ×：対応不可
	OUT ○	×	
HS-Link入力ボード DI2-HS1	● 最大192kHz		
HS-Link出力ボード DO2-HS1	● 2.8224MHz/1bitのDSD信号		

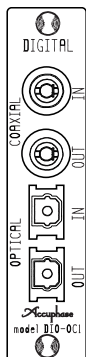
①HS-Linkケーブル(1.5m) HDL-15 希望小売価格 10,000円(税込 10,500円)

HS-Linkインターフェースでデジタル信号を伝送するケーブルです。
HS-Link(RJ-45)コネクターの装備が必要です。

- シールド付ツイスト・ペアー8芯OFCケーブル(TIA/EIA-568A CAT.5)
- 3m, 5m, 7.5m, 10m用も用意しています。



② デジタル入・出力ボード DIO-OC1 希望小売価格 40,000円(税込 42,000円)



同軸、光ファイバーの入・出力端子を装備、2系統の入・出力信号を接続することができます。

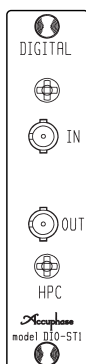
接続 “IN”端子 ⇔ デジタル機器の“DIGITAL OUT”
“OUT”端子 ⇔ デジタル機器の“DIGITAL IN”

COAXIAL: 75Ω同軸ケーブルで接続
OPTICAL: 光ファイバーで接続

保証特性、適合規格

入力フォーマット	: JEITA CP-1201に準拠
デジタル入・出力	: COAXIAL 0.5Vp-p 75Ω
	: OPTICAL 光入力 -27~-15dBm
	: 光出力 -21~-15dBm

③ HPCオプティカル入・出力ボード DIO-ST1 希望小売価格 50,000円(税込 52,500円)



HPCオプティカル入・出力端子で、STタイプの光リンク・コネクタを装備している機器と接続します。

この端子は、150M bps伝送能力を持つ超高速リンクを使用しています。

接続 “IN”端子 ⇔ デジタル機器の“DIGITAL OUT”
“OUT”端子 ⇔ デジタル機器の“DIGITAL IN”

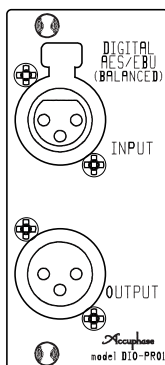
*STは、AT&T社の登録商標です。

*STタイプの光ファイバー(市販)で接続してください。

保証特性、適合規格

入・出力フォーマット	: JEITA CP-1201に準拠
コネクタ形状	: STタイプ
入力レベル	: 光入力 -30~-10dBm
出力レベル	: 光出力 -19~-14dBm

④ AES/EBU入・出力ボード DIO-PRO1 希望小売価格 60,000円(税込 63,000円)



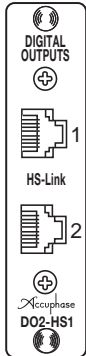
AES/EBU(業務用デジタル規格)に対応した、入・出力XLRコネクタを装備しています。この規格のコネクタを装備しているデジタル機器の入力やデジタル・レコーダーを接続、録音・再生することができます。

接続 “INPUT”端子 ⇔ デジタル機器の“DIGITAL OUT”
“OUTPUT”端子 ⇔ デジタル機器の“DIGITAL IN”

保証性能、適合規格

入出力フォーマット	: JEITA CP-1201に準拠
デジタル入力	: 0.5V p-p min 250Ω
デジタル出力	: 3.0V p-p 110Ω

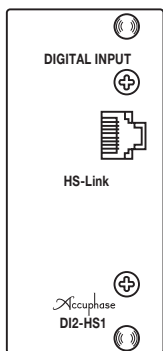
⑤ HS-Link出力ボード DO2-HS1 希望小売価格 80,000円(税込 84,000円)



HS-Linkインターフェースでデジタル信号を伝送する場合の、HS-Link出力ボードです。

- ※専用のHS-Linkケーブルで接続します。
- ※接続例は22, 23, 27, 28, 29ページ参照

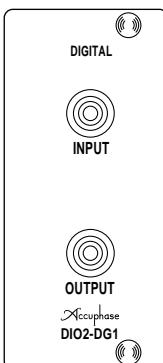
⑥ HS-Link入力ボード DI2-HS1 希望小売価格 100,000円(税込 105,000円)



HS-Linkインターフェースでデジタル信号を伝送する場合の、HS-Link入力ボードです。

- ※専用のHS-Linkケーブルで接続します。
- ※接続例は22, 23, 25, 27, 28, 30ページ参照

⑦ DG-28用広帯域デジタル入・出力ボード DIO2-DG1 希望小売価格 100,000円(税込 105,000円)



DG-28とデジタル接続する場合に、DC-101、DC-330などの「EXT DSP」スロットに増設して、使用します。(接続例は27ページ参照)

SA-CDなどサンプリング周波数48kHzを超えるデジタル信号に対応し、DG-28をデジタル接続して音場補正することができます。

- ※2スロット使用するため、「EXT DSP」の左隣のオプションスロットも空いていないと使用できません。
- ※75Ω同軸デジタル・ケーブルで接続します。

注意

Digital OUT端子の信号はCD-R, MD, DATなどの録音用として使用できません。

アナログ接続時、DG-38に増設

※接続例は31ページ参照

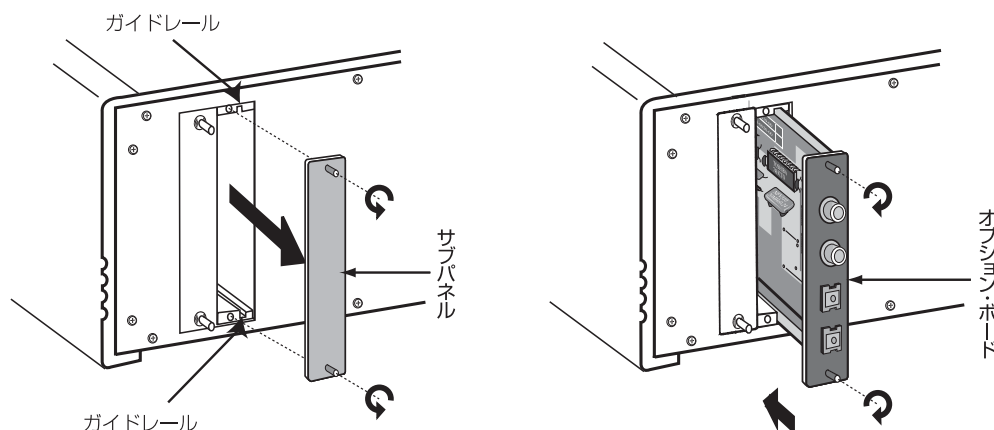
⑧ライン入力ボード(アンバランス用)	AI2-U1	希望小売価格 60,000円 (税込 63,000円)
⑨ライン入力ボード(バランス用)	AI2-B1	希望小売価格 70,000円 (税込 73,500円)
⑩ライン出力ボード(アンバランス用)	AO2-U1	希望小売価格 80,000円 (税込 84,000円)
⑪ライン出力ボード(バランス用)	AO2-B1	希望小売価格 80,000円 (税込 84,000円)

アナログ接続時、DG-28に増設

⑫DG-28用広帯域アナログ入・出力ボード (アンバランス用)	AIO-DGU1	希望小売価格 90,000円 (税込 94,500円)
⑬DG-28用広帯域アナログ入・出力ボード (バランス用)	AIO-DGB1	希望小売価格 100,000円 (税込 105,000円)

オプションの取り付け方法

- ① 本体の電源スイッチをOFFにします。
- ② リアパネルのオプション用スロットのサブパネルをはずします。
2スロット使用するボードの場合は、2枚はずします。
- ③ スロット内の上下のガイドレールに沿って、オプション・ボードを挿入します。コネクタに当って止まったら、少し力を入れてコネクタを完全に差し込みます。(パネル面が同一になればOKです。)
- ④ 上下のネジ2カ所で確実に固定します。



⚠ 注意

- オプションを抜き差しするときは、必ずDP-78の電源を切る。
電源を入れたまま抜き差しすると、故障の原因となります。
- 部品面やハンダ面、コネクタの接点部分を手で触らない。
手で触ると接触不良や回路が故障する原因となることがあります。ボードを持つ場合にはプリント板の外周やパネル部を持ってください。
- オプションの取り付けネジ(2カ所)は手で完全に締める。
締めつけが不十分ですと、端子がグラウンドから浮いて接触不良となり、故障の原因となることがあります。

8. 保証特性

[保証特性はJEITA測定法CP-2402に準ずる]
[測定用ディスク:PHILIPS 3122-783-00632]

トランスポート部

適合ディスク

2チャンネルSuper Audio CD
CD

読み取り方式

非接触光学式

レーザー・ダイオード発光波長

SA-CD用: 650nm
CD用: 780nm

トランスポート出力 フォーマット: JEITA CP-1201準拠

COAXIAL : 0.5Vp-p 75Ω
OPTICAL : 光出力 -21~-15dBm
発光波長: 660nm

デジタル・プロセッサ部

デジタル入力

COAXIAL フォーマット: JEITA CP-1201/AES3準拠
OPTICAL フォーマット: JEITA CP-1201準拠
サンプリング周波数 32kHz, 44.1kHz, 48kHz, 88.2kHz, 96kHz
(各16~24bit 2ch PCM)

[オプション・ボードにて対応]

176.4kHz, 192kHz(各24bit 2ch PCM)
2.8224MHz (1bit 2ch DSD)

D/Aコンバーター

24ビット MDS++方式

周波数特性

0.5~50,000Hz +0, -3dB

全高調波ひずみ率

0.0008% (20~20,000Hz間)

S/N

114dB

ダイナミックレンジ

110dB (24bit入力, LPF: OFF)

チャンネル・セパレーション

108dB (20~20,000Hz)

出力電圧・出力インピーダンス

BALANCED : 2.5V 50Ω 平衡 XLRタイプ
UNBALANCED : 2.5V 50Ω RCAフォノジャック

出力レベル・コントロール

0~-60dB, 1dBステップ (デジタル方式)

全 体

電 源

AC100V 50/60Hz

消費電力

25W

最大外形寸法

幅465mm × 高さ150mm × 奥行397mm

質 量

18.4kg

付属リモート・コマンダー RC-100

リモコン方式 : 赤外線パルス方式
電 源 : 単4形乾電池2個使用
最大外形寸法 : 56mm×175mm×26mm
質 量 : 155g(電池含む)

●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。

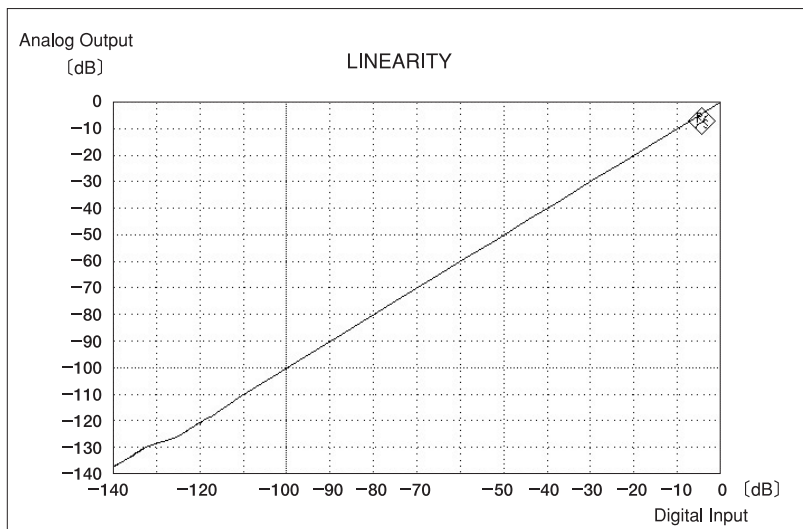
JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性-第3-2部:限度値-高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

※本機の特長および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

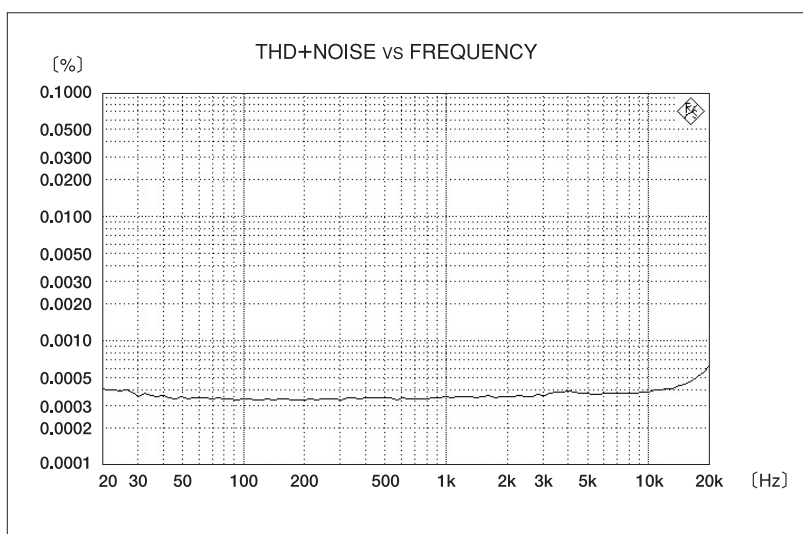
著作権について

放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

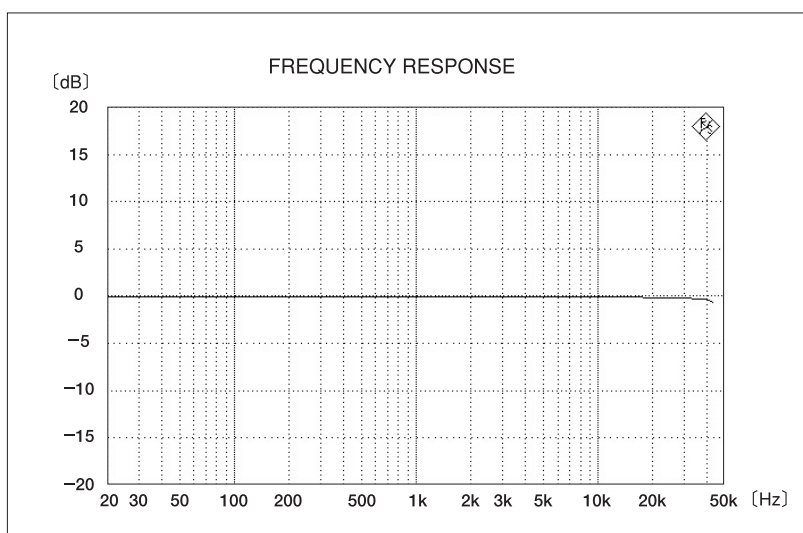
9. 特性グラフ



リニアリティ
(デジタル入力対アナログ出力)

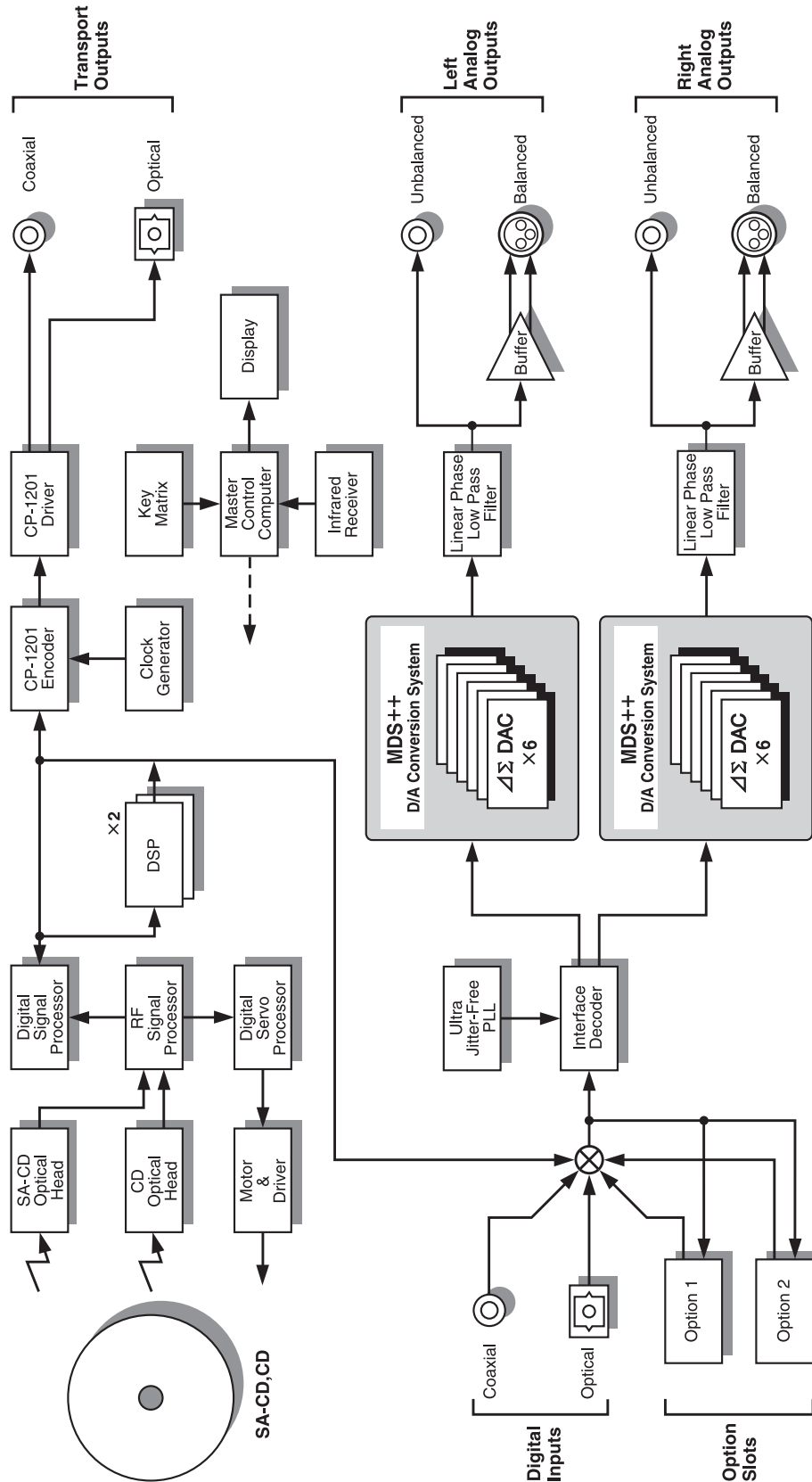


全高調波ひずみ率
(雑音含む) 対周波数特性



周波数特性

10. ブロック・ダイアグラム



11. 故障かな？と思われるときは

故障かな？と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。
これらの処置をしても直らない場合には、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。



注意：接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切る。

電源が入らない(ディスプレイが点灯しない)

- 電源コードが抜けていませんか。(本体側、コンセント側確認)

演奏が始まらない

- ディスクが正常に装着されていますか。
- 低温時であれば、結露の可能性もあります。(3ページ参照)
- SA-CD/CDプレーヤー動作ですか。(12ページ参照)
- 本機で演奏できるディスクですか。(5ページ参照)

音がでない。またはレベルが低い

- 入力セレクターを確認します。
- 出力コードが正しくアンプに接続されていますか。
- アンプ側のスイッチ類やボリュームの確認をします。
- リモート・コマンダーのLEVELボタンで出力レベルを確認します。

音が途切れたり雑音が出る。 演奏途中でディスクが止まる

- ディスクに反り、汚れ、傷はありませんか。
- 接続コードのプラグの汚れ、接触を点検します。
- 光ファイバーはJEITA規格品ですか。
(規格に適合しないものは正常な動作ができません)

片側から音が出ない

- 出力コードを左右入れ替えます。
同じ側から音がでない …… アンプ側に原因が考えられます。
左右逆になる …………… 本機に原因が考えられます。

リモート・コマンダーで操作できない

- 電池は入っていますか。
- 新しい電池に交換してみましょう。
- 受光部付近に障害物はありませんか。

外部接続機器の出力がない

- プロセッサー動作ですか。……入力セレクターを確認します。
- 選択した入力信号のロックはされていますか。(24ページ参照)
HS-Link、光ファイバー、同軸それぞれ接続したケーブルをお確かめください。

12. アフターサービスについて

保証書

- 保証書は本体付属の「お客様カード」の登録でお送りいたします。
- 「お客様カード」の「お客様情報欄」には付属の「目隠しシール」を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。
- 「お客様カード」の登録をされていない場合、購入日は当社からの出荷日が適用されます。
- 保証書登録は付属の「お客様カード」で行われますが、購入が不適切な場合は登録できないことがあります。
- 保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。
- オプション・ボードやオプション・ユニットには「お客様カード」は付属していません。

保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後最低8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。



注意

保証期間以降、長期に渡ってご使用の場合には、当社の定期的な点検をお薦めします。

その他

- 改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川 2-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理の問い合わせが可能です。
<http://www.accuphase.co.jp/>

修理依頼の場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご住所、氏名、電話番号
- ご購入日、ご購入店
- 故障状況:できるだけ詳しく

※梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY, INC.
アキュフェーズ株式会社
横浜市青葉区新石川2-14-10
〒225-8508 TEL (045) 901-2771(代)